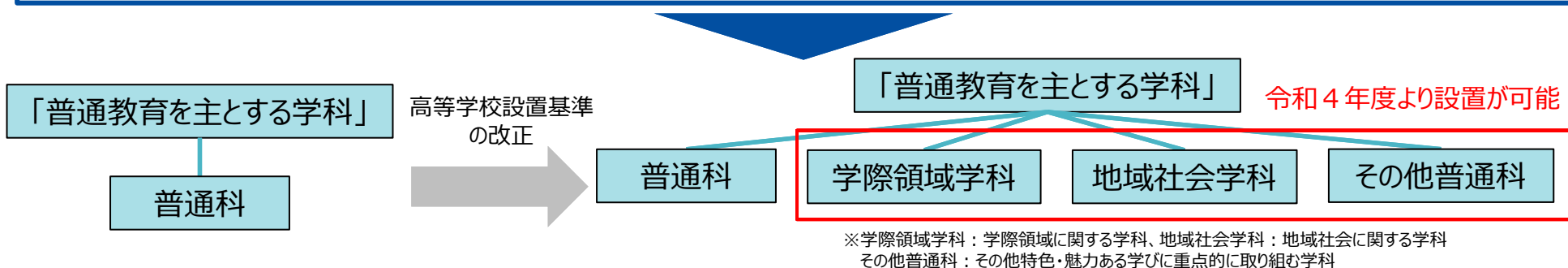


「普通教育を主とする学科」の弾力化 – 普通科改革の意義・概要

- 普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、**生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題がある**との指摘もなされており、「普通」の名称から**一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすい**ところ、普通科においても、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、**生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようにする**。



学際領域学科

現代的な諸課題のうち、**SDGsの実現**や**Society5.0の到来に伴う諸課題**に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の**特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

地域社会学科

現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする**地域社会が抱える諸課題**に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した**実践的な特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

その他普通科

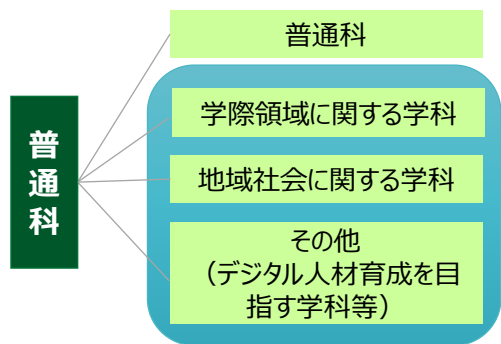
その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく**特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を推進し、探究・STEAM教育、特色・魅力ある文理融合的な学び、今後の社会に求められるデジタル人材育成等を実現するため、令和4年度から設置が可能となった新しい普通科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

事業内容

① 普通科改革支援事業

令和4年度より設置が可能となった新しい普通科を設置する予定の高等学校等に対し、関係機関等との連携協力体制の整備や、コーディネーターの配置などの支援を行い、新学科設置の取組を推進することで、探究・STEAM教育や特色・魅力ある文理融合的な学びを実現する。



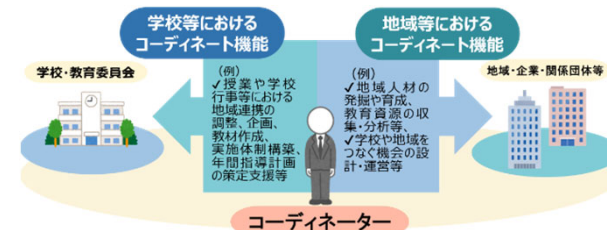
② 創造的教育方法実践プログラム

教科等横断的な学びの実現による資質・能力の育成、デジタル人材育成を目指し、遠隔・オンライン教育（質の高い通信教育を含む。）を活用した新たな方法による学びを実現する。(1) Society 5.0の実現に向けた最先端の技術を活用した学び、(2) 自らの興味関心に応じた探究的な学びに着目し、同一設置者の学校間のみでなく、他地域における大学や研究機関、国際機関等の関係機関からの同時双方向型の授業を取り入れたカリキュラム開発を行い、新しい時代の学びを創造する。



③ 高校コーディネーター 全国プラットフォーム構築事業 (PDCAサイクルの構築)

高校と地域、関係団体等をつなぐコーディネーターの全国的なプラットフォームを構築する。プラットフォームにおいては、コーディネーター人材やコーディネーターを受け入れる学校に対する研修を行うとともに、コーディネーター間の情報共有を促す場を創出することで、コーディネーターが持続的効果的に活躍できるようにするとともに、成果指標の検証による高等学校改革のPDCAサイクルの構築を図る。



対象校種

国公立の高等学校

委託先

①②学校設置者 ③民間団体等

箇所数
単価
補助率

①36校（継続29校、新規7校）約4,700千円／1校
② 8校（継続8校）約3,600千円／1校
③ 1団体 約20,000千円／1団体

委託
対象経費

①新学科の設置に必要な経費
②新たな教育方法を用いた学びに必要な経費
③プラットフォームの構築や成果検証に必要な経費

「普通教育を主とする学科」の弾力化 – 新しい普通科の要件

- (1) **各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目**を設け、当該学校設定教科・科目（**2単位以上**）及び総合的な探究の時間を**合計6単位以上、全ての生徒に対し、原則として各年次にわたって、履修させること**
- (2) 学校設定教科・科目と総合的な探究の時間について、**相互の関連を図り、系統的、発展的な指導を行うこと**に特に意を用いること
- (3) 学際領域学科においては、**大学等の連携協力体制を整備**すること
- (4) 地域社会学科においては、**地域の行政機関等との連携協力体制を整備**すること
- (5) 学際領域学科及び地域社会学科においては、**関係機関等との連携を行う職員の配置**その他の措置を講じるよう努めること

新しい普通科における学校設定科目

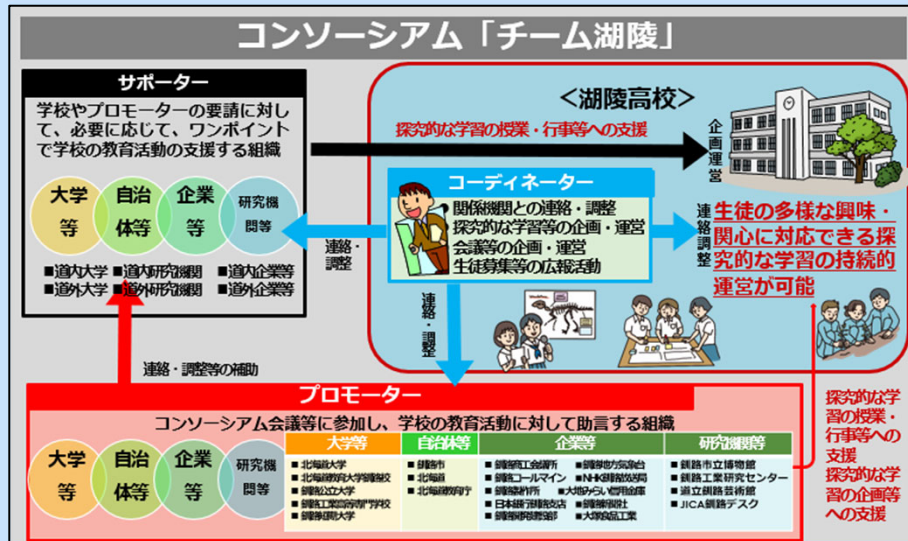
学際	福岡県立八幡高等学校 文理共創科 「 知の追究 」「 知の探究 」 計4単位・1～3学年	「知の追究」では教科等横断的な授業を通して、文系・理系の枠を超えて複数の教科・科目を融合し、学問と社会との繋がりや生きる上での学問の意義を感得させ、主体的に学問に向き合う姿勢の育成を目指す。「知の探究」では物事を多角的、複合的に捉え論理的に考察し表現することで、学問領域を統合してアプローチする際の手段となる情報活用能力や課題発見・解決に繋がる豊かな発想力を育成する。
地域	学校法人信愛学園 浜松学芸高等学校 探究創造科 「 探究創造概論 」「 演習 」 計12単位・1～3学年	探究創造概論は、主に学校内にてプロジェクト学習およびそれに必要な基本的スキルや理論を習得するための学習を中心に構成。探究創造演習では、概論で身につけた知識・技能をもとに、主に校外を活動の中心地としてプロジェクトで設定されたテーマや生徒が自ら設定した課題の解決に向けたアイデア構築、制作、プレゼンなどの企画実行に取り組む。
特色がある科目	和歌山県立串本古座高等学校 未来創造学科（宇宙探究コース） 「 宇宙探究基礎 」 2単位・1学年	民間ロケット発射場が近接しているメリットを活用し、自らの在り方・生き方と向き合い、Society 5.0を生き抜くために必要な力を育成する。宇宙実験に挑戦したり、水ロケットミッションを探究的かつ、競技的な要素を取り入れつつ運動の仕組みや物理・数学に関する内容を組み込みながら学ぶ。また、身近な材料でマイ望遠鏡を作成し、天体観測と天体写真に挑戦するとともに、宇宙飛行士トレーニングを協働的に学ぶことにより、チームビルディングを体験的に学ぶ。
	鹿児島県立種子島中央高等学校 ミライデザイン科 「 DX 」 7単位・1～3学年	自ら課題を発見し、解決までの過程を筋道立てて構築する力（デザイン思考）と、課題解決のための有効的な手段として、目的に応じてデジタルツールを適切に選択・活用できる力（デジタル技術）の2つの力を育成。デザイン思考では、課題発見力・コミュニケーション力育成のための活動を行い、デジタル技術ではデータサイエンスに関する基礎力の習得を行う。



◆ コンソーシアムの構築

北海道釧路湖陵高等学校

コンソーシアム「チーム湖陵」を構成。連携協力機関として、コンソーシアム会議等に参加し、学校の教育活動に対して助言する組織である「プロモーター」と、学校やプロモーターの要請に対して、必要に応じてワンポイントで学校の教育活動を支援する組織である「サポーター」を配置。コーディネーターが全体の連絡調整を行うことで、生徒の多様な興味・関心に対応できる探究的な学習の持続的な運営が可能となる。

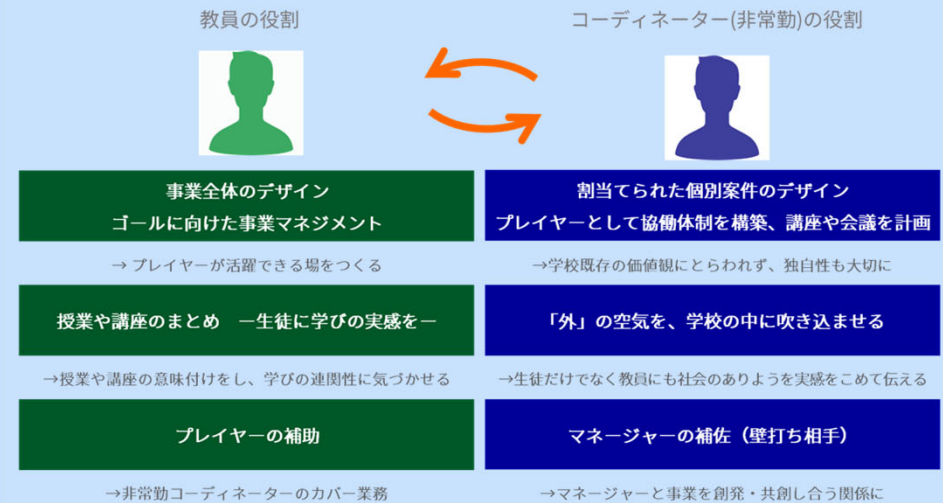


◆ 教員とコーディネーターとの連携

兵庫県立御影高等学校

探究を担当する教員がマネージャーとして全体の総括を行い、コーディネーター3名がプレイヤーとなり、それぞれの担当する業務について実働する。教員がマネージャーとして全体を総括することにより、探究全体のデザインをすることが可能になり、コーディネーターが活躍できる場を作ることができる。

教員の役割 – コーディネーターとの「すみ分け」 –



「普通教育を主とする学科」の弾力化－コーディネーターの例



#専任

愛媛県立三崎高等学校 社会共創科

経歴等 >>>

教職経験や一般企業での海外勤務経験等の幅広い経験を有する。

業務内容 >>>

三崎高等学校の職員室に常駐し、校内の地域協働課に配属。「未咲輝（みさき）学」等のアップデート、地域探究活動に関係する新しい学校設定科目「トライブ・ラーニング」等の立案、地域特別講師データベースの構築、新事業の企画立案や外部人材との連絡・調整等を行っている。また、教員や生徒とともに、学校の魅力を全国の中학생に向けて発信している。



#NPO・企業等関係者

北海道大樹高等学校 地域探究科

経歴等 >>>

大樹町教育委員会社会教育課地域コーディネーター（小・中学校の地域連携）や大樹町学校運営協議会委員、自治体等のPRプロジェクトマネジメント、企業インターンシップのコーディネート等の経験を有する。

業務内容 >>>

コーディネーター統括として、探究学習のカリキュラムマネジメント等を行うとともに、学校や運営指導委員会、コンソーシアム、学校運営協議会、町教育委員会との連絡・調整を行っている。また、地域・校内外向け情報発信をプロデュース。地域探究サークル顧問も担っている。



#大学関係者

北九州市立高等学校 未来共創科

経歴等 >>>

北九州市立大学准教授。高大連携事業や高大接続についての取組をゼミ活動として実施している。

業務内容 >>>

教職員への研修業務や学校設定教科・科目のカリキュラム開発にかかる指導・助言、検討委員会が策定するカリキュラムづくりの支援、事業実施体制の構築、年間指導計画の策定、評価方法の設計等を支援する。また、北九州市立大学と北九州市立高等学校との連携活動や、学校の要望に応じて、大学生を交えた探究活動の企画・調整等を行う。



#退職教職員

長崎県立松浦高等学校 地域科学科

経歴等 >>>

元松浦市立中学校長

業務内容 >>>

「まつナビ・プロジェクト」を活用した松浦高等学校と近隣小中学校との交流学習の企画・運営。「まつうら高校応援団」等と、生徒の学びへの支援内容等について調整。探究活動等が可能となる団体・人物に支援を依頼。近隣小中学校や市、事業所等との意見交換や情報収集等。近隣中学校に対する地域科学科の生徒募集活動。県内外の高校との連携事業を具体化し、生徒間・教員間の意見交換の場を設定。

「普通教育を主とする学科」の弾力化 – 新しい普通科の設置状況

公立高等学校における新しい普通科設置状況

※令和6年5月時点

・岐阜県立坂下高等学校 **地域社会学科** (令和4年度設置)

・滋賀県立伊香高等学校 **地域社会学科** (令和7年度設置予定)
 ・滋賀県立守山北高等学校 **地域社会学科** (令和7年度設置予定)

・京都市立開建高等学校 **地域社会学科** (令和5年度設置)

・兵庫県立柏原高等学校 **地域社会学科** (令和6年度設置)
 ・兵庫県立御影高等学校 **学際領域学科** (令和6年度設置)
 ・兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 **その他普通科** (令和6年度設置)
 ・兵庫県立姫路飾西高等学校 **その他普通科** (令和6年度設置)

・島根県立隠岐島前高等学校 **地域社会学科** (令和4年度設置)

・広島市立美鈴が丘高等学校 **地域社会学科** (令和7年度設置予定)

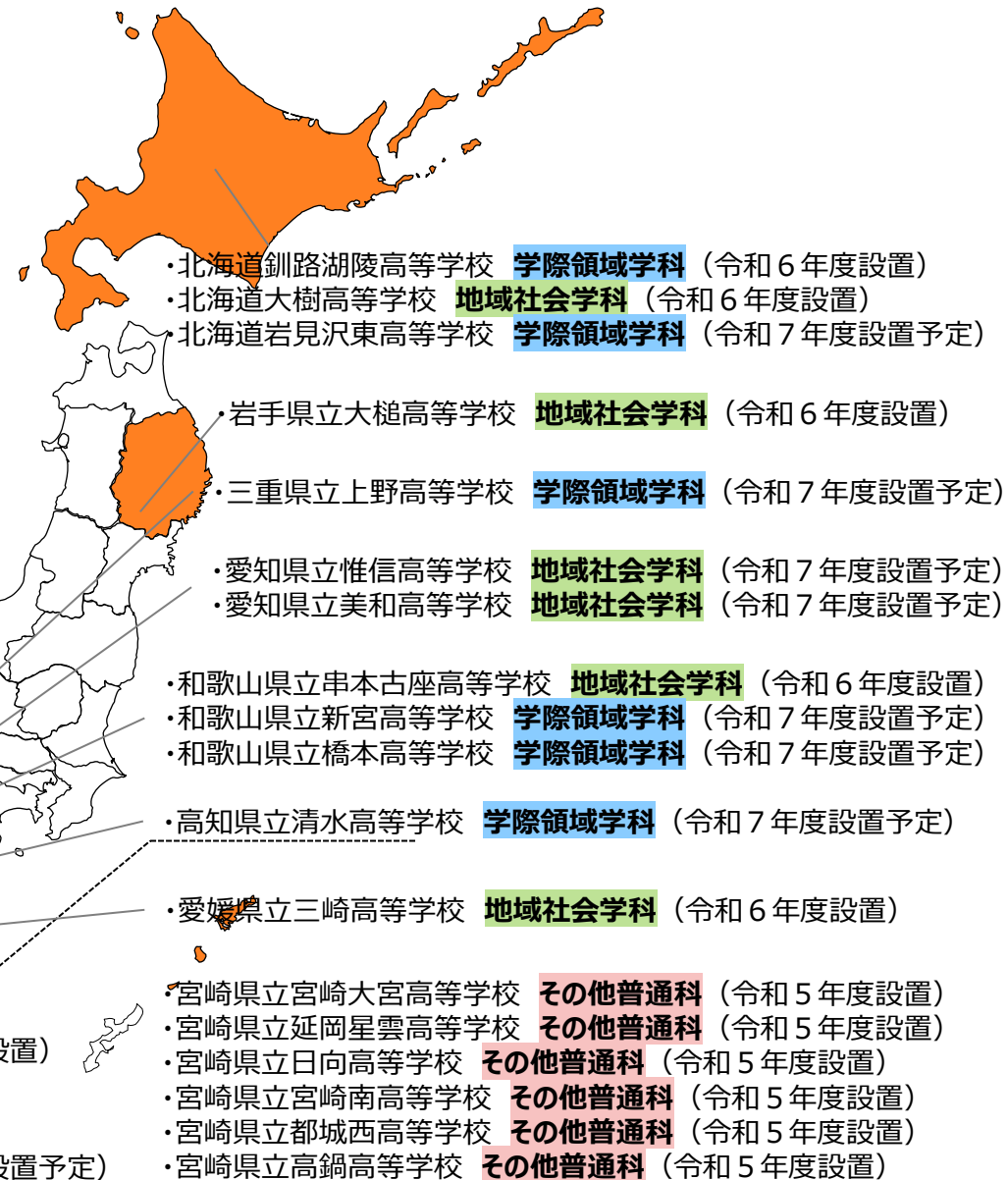
・福岡県立八幡高等学校 **学際領域学科** (令和6年度設置)
 ・北九州市立高等学校 **地域社会学科** (令和6年度設置)

・長崎県立松浦高等学校 **地域社会学科** (令和4年度設置)

・鹿児島県立種子島中央高等学校 **その他普通科** (令和6年度設置済)

・熊本市立必由館高等学校 **地域社会学科** (令和6年度設置)

・宮崎県立飯野高等学校 **地域社会学科** (令和8年度設置予定)



※私立高等学校は5校設置

※令和5年度学校基本調査及び普通科改革事業(令和4年度指定校、令和5年度指定校)等より、文部科学省事務局において作成

「普通教育を主とする学科」の弾力化－更なる発展に向けた課題と論点

新しい普通科の更なる発展に向けた課題

- ◆ 新しい普通科を設置している自治体に偏りがある。
- ◆ 新しい普通科における組織体制の構築等や教育課程の検討、それを実現するための経験が少なく、学科新設や学科改編へのハードルが高い。
- ◆ 学校設定教科・科目の指導をする教師と関係機関、コーディネーターが連携・協働する際の知見が不足している。
- ◆ 総合的な探究の時間を軸として分野、教科・科目横断的な学びに取り組む新しい普通科がある一方で、単なる体験や各テーマに関する表層的な学びにとどまっているケースがある。
- ◆ 「社会に開かれた教育課程」の観点から、関係機関と連携・協働する体制が整えられている一方で、持続可能性については不確定な部分が多い。
- ◆ 高等学校と関係機関とのコーディネート機能を担うコーディネーターの人材確保が困難。また、雇用に必要な支援が不足している。
- ◆ 新しい普通科における探究・文理横断・実践的な学びにより身に付けた力を、大学で発展・向上させるという趣旨から、高大接続の充実が求められる。
- ◆ 中学生や保護者、地域住民に新しい普通科が浸透しておらず、新しい普通科における教育課程や進学等に対する不安感が認められる。

今後の論点

- ◆ 新しい普通科への学科改編や新しい普通科における探究活動の知見の蓄積及び横展開
- ◆ 関係機関やコーディネーターと連携・協働する体制の事例の収集・周知及び研修の在り方に関する検討
- ◆ コーディネーター的役割を有する教員の育成や、コーディネーターの充実に向けた適切な支援措置の検討
- ◆ 新しい普通科に関心がある他の高等学校に普及していくための先行事例の収集・周知及び高等学校間での交流の促進
- ◆ 中学生や保護者、地域住民に新しい普通科を認識してもらうための広報活動

(参考 1) 普通科改革支援事業 指定校一覧

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）令和4年度指定校一覧



文部科学省

No.	管理機関	指定校	設置学科 新学科設置(予定)年度	教育課程の特色
1	北海道教育委員会	北海道釧路湖陵高等学校	学際領域学科 (令和6年度設置済)	学際的な分野に関する学校設定科目と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結び付けた探究的な学習を重視した教育活動の実施
2	北海道教育委員会	北海道大樹高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	地域探究と台湾大樹区との国際交流を核とした「大樹学PLUS」、高大連携や企業連携による「大樹高STEAM」での地域社会の課題や魅力に着目した学び
3	岩手県教育委員会	岩手県立大槌高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる探究をはじめ、「学ぶことが楽しい」と思う魅力的な学びの環境を地域とともに創出
4	学校法人信愛学園	浜松学芸高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	文理融合した教科横断的・系統的な地域での学びをカリキュラムとして構築し、ARTの視点を用いたプロジェクトに取り組み、地域への成果還元を行う
5	三重県教育委員会	三重県立上野高等学校	学際領域学科 (令和7年度設置予定)	SDGsに関する学習、プログラミングやSTEAMリテラシーの育成等、国内外を学びの場とした探究プログラムによる、文理が融合した新たな学び
6	京都市教育委員会	京都市立開建高等学校	地域社会学科 (令和5年度設置済)	広い学習空間・ラーニングポッド(L-pod)による自由な発想で学べる環境づくりや、魅力あふれる京都をフィールドにした探究活動の実施
7	兵庫県教育委員会	兵庫県立柏原高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	地域力を活用した探究活動の実践による学びの深化を通じて、「多様な価値観を共有する人材」を育成する教育課程
8	兵庫県教育委員会	兵庫県立御影高等学校	学際領域学科 (令和6年度設置済)	人文・社会科学に、自然科学分野も取り込んだ学際的な学びを展開し、課題に協働的に取り組み、広い価値を創造する生徒を育てる
9	和歌山県教育委員会	和歌山県立串本古座高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	地域の多様な教育資源を活用した「宇宙探究コース」「地域探究コース」の設置を通じたSociety5.0を生き抜くために必要な能力の育成
10	和歌山県教育委員会	和歌山県立新宮高等学校	学際領域学科 (令和7年度設置予定)	蘇りの地「熊野」にかかわる学際的な学びによる、気づきや問いに誠実に向き合う広く深い学びの実現

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）令和4年度指定校一覧



文部科学省

No.	管理機関	指定校	設置学科 新学科設置(予定)年度	教育課程の特色
11	和歌山県教育委員会	和歌山県立橋本高等学校	学際領域学科 (令和7年度設置予定)	学際的な分野に関する学校設定科目「世紀の空」と総合的な探究の時間・各教科を関連付け、開かれた広い視野での課題解決を实践
12	島根県教育委員会	島根県立隠岐島前高等学校	地域社会学科 (令和4年度設置済)	離島発「グローバル人材」育成のための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」
13	愛媛県教育委員会	愛媛県立三崎高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	地域社会学を教育課程に位置づけたSTEAM教育・キャリア教育の推進等による「みさこうSTEAM教育」の実現
14	高知県教育委員会	高知県立清水高等学校	学際領域学科 (令和7年度設置予定)	ジョン万次郎の生涯を紐解き、現代社会の諸相についてSDGsの視点から考察することを通して、「21世紀のジョン万次郎」を育成
15	福岡県教育委員会	福岡県立八幡高等学校	学際領域学科 (令和6年度設置済)	学校設定教科「知の統合」による教科科目横断型授業と総合的な探究の時間「夢現プロジェクト」との往還
16	北九州市教育委員会	北九州市立高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	SDGsの視点から社会課題を捉え、探究活動と「産・官・学・民」の連携により社会変革とビジネスの一致を目指し、未来の社会をけん引する力を育成
17	長崎県教育委員会	長崎県立松浦高等学校	地域社会学科 (令和4年度設置済)	「松高キャリア・プランニング」や「まつナビ・プロジェクト」(地域課題解決型学習)における探究活動等による、地域社会の未来を担うリーダーの育成
18	宮崎県教育委員会	宮崎県立飯野高等学校	地域社会学科 (令和8年度設置予定)	学校設定科目「グローバル共創探究」による地域をフィールドとした探究活動や「超探究の日」等による、次世代に必要な力を地域と共育する学び
19	熊本市教育委員会	熊本市立必由館高等学校	地域社会学科 (令和6年度設置済)	学校設定科目「必由学」の新設、熊本市教育エコシステムの活用、データサイエンスを取り入れた学習活動等による特色・魅力ある学びの実現

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）令和5年度指定校一覧



No.	管理機関	指定校 (設置学科名)	設置学科 新学科設置(予定)年度	教育課程の特色
1	北海道教育委員会	北海道岩見沢東高等学校	学際領域学科 (令和7年度設置予定)	学際的、複合的な最先端の学問分野の知見に基づき、地域から世界の諸課題の解決に向けて段階的に学ぶ探究学習によるグローバルな視野の育成
2	愛知県教育委員会	愛知県立惟信高等学校	地域社会学科 (令和7年度設置予定)	普通科・グローバル探究科で共通の「総合的な探究の時間」による学びの相乗効果と、グローバル探究科の生徒主体による計画・準備・実施を主軸とするカリキュラム
3	愛知県教育委員会	愛知県立美和高等学校	地域社会学科 (令和7年度設置予定)	地域の魅力探究・連携機関や大学との協働・自らの知識や技術を地域社会に還元することをテーマとした教育課程をもとに、豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成
4	滋賀県教育委員会	滋賀県立伊香高等学校	地域社会学科 (令和7年度設置予定)	滋賀県北部地域の豊かな自然環境の中、「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む〈ゼロ・カーボン・ハイスクール〉を目指す
5	滋賀県教育委員会	滋賀県立守山北高等学校	地域社会学科 (令和7年度設置予定)	学校設定教科「みらい共創」による「地域をフィールドとした学び」と「ウェルビーイング」を柱に、多様性を尊重し、他者と協働しながらよりよい地域の未来を創造
6	兵庫県教育委員会	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	その他普通科 (令和6年度設置済)	文理融合の学びを土台とし、地域の企業・海外の関係機関等との連携や先端技術を用いた探究活動を通じて、既存の枠に捉われない新たな価値を創造する学びを展開
7	兵庫県教育委員会	兵庫県立姫路飾西高等学校	その他普通科 (令和6年度設置済)	先進技術の体験やプログラミング、企業とのワークショップ等を通じた、社会課題の解決や未来社会の創造を「自分ごと」として捉えさせる学び
8	広島市教育委員会	広島市立美鈴が丘高等学校	地域社会学科 (令和7年度設置予定)	国際平和文化都市「広島」をフィールドとし、探究を深化させる学校設定教科、社会と繋がる問いを重視した授業、学年の枠を超えた探究活動を一体的に展開
9	鹿児島県教育委員会	鹿児島県立種子島中央高等学校	その他普通科 (令和6年度設置済)	幅広い知識の上にデジタル技術の活用を学び、自ら発見した課題に対し、効果的な解決方法を選択し、実践できる資質・能力を育成

(参考2) 普通科改革事業における取組概要

【北海道釧路湖陵高等学校】学際領域学科（令和6年度設置）

【設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

- 現代的な諸課題に対応するため、大学等で構成するコンソーシアムの支援のもと、学際的な分野に関する学校設定科目「KQ(Koryo Quest) I～Ⅲ」と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結び付けた探究的な学習を重視した教育活動を展開する。
- 外部人材を積極的に活用し、課題解決に必要な資質・能力の伸長に資する教科等横断的な学習を推進することで、高校卒業後の高等教育機関での学びや、実社会に関わる課題の解決に対応したこれからの普通科の教育のモデルとしての役割を果たす。

【取組状況】

- ①コーディネーター研修の活用と各種業務等をデータ化
- ②コンソーシアムを活用したフィールドワーク等の実施
- ③同事業実施校からの訪問受入や連携授業の実施
- ④新学科設置説明会や中学校訪問による広報
- ⑤特色ある教育活動の実施と次年度への検証を実施
- ⑥「KQ I」を発展させるカリキュラムを開発
- ⑦運営指導委員会（2回）、コンソシアム会議（3回）等を実施し、専門家による評価及び次年度に向けた取組への指導・助言
- ⑧フィリッパの高校、オーストラリアの大学とオンライン交流
- ⑨事業3年目に向けた課題の明確化及び充実を図る評価の実施

【成果】

- 校内、地域内における新学科への理解の促進
- ・新学科通信の発行、新学科設置説明会に開催
- 道内外の同一事業実施高校との連携体制の構築
- ・視察受入、コーディネーター研修を通じたネットワークの構築
- 学校設定教科・科目への期待
- ・探究活動の基礎的な理論や技法の習得
- ・様々な学問領域を横断した学校設定科目「KQ I」の先行実施と成果・課題の把握

【課題】

- 国内外の高校、大学等と連携
- ・個別の探究活動と関係機関との連携体制の強化
- 事業成果の適切な評価の実施
- ・長期的な視点での事業成果の正確な把握
- コンソーシアムの理解と支援体制の明確化
- ・コンソーシアムを効果的に活用するノウハウの蓄積
- 事業終了後（令和7年度以降）の自走できる校内体制構築
- ・事業終了後の持続可能な体制づくり

【令和6年度の目標】へ

【令和5年度の目標】

- ①コーディネーターの人材育成と業務のマニュアル化
- ②コンソーシアムの積極的な活用
- ③同事業指定校との情報共有と連携体制の構築
- ④新学科に係る広報活動
- ⑤学校設定科目KQ（KQ I）の先行実施と内容の検証
- ⑥学校設定科目KQ（KQ II）の計画作成
- ⑦各種会議の開催による事業内容の検証
- ⑧海外とのオンラインを含めた交流
- ⑨次年度に向け、事業2年目の成果検証、評価

教育プログラムの作成

コーディネーター

教育プログラム実施時の連携

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】 コンソーシアム「チーム湖陵」の設置

プロモーター

釧路市内コンソーシアムメンバーで構成

支援



支援

サポーター

釧路市外コンソーシアムメンバーで構成

コーディネーターを中心に、生徒の探究活動に対応する多種多様な大学、国の機関、自治体、事業所、研究機関等とのコンソーシアムを活用(プロモーター約25団体、サポーター約30団体が参加)

【北海道大樹高等学校】地域社会学科（令和6年度地域探究科設置）

【地域探究科設置の目的】

- 地域共創・共生社会の実現とそれに必要な資質・能力を育成すること
- 「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

【特色・魅力ある取組】

大樹スタンダード

ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ、インクルーシブによる授業改善

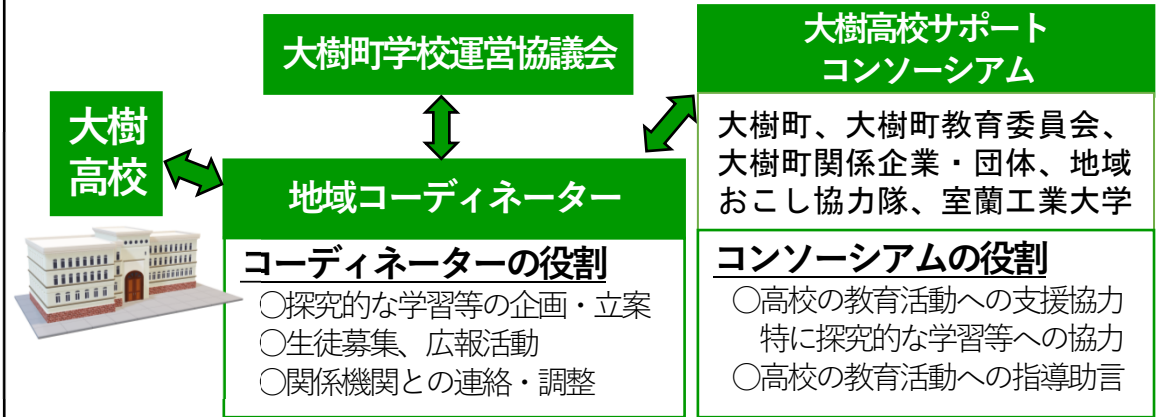
大樹学PLUS

総探と台湾国際交流を核とした多様性・共生社会の理解

大樹高STEAM

室蘭工業大学との連携や町内関係企業との連携によるSTEAM教育の推進

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



【令和5年度の目標】

- (1) 個別最適化の学習体制の維持・発展
- (2) 「大樹学」の見直し小中高一貫キャリア教育の協議
- (3) 1学年における進路・自己探究、2学年における異文化・多様性探究の工夫・改善
- (4) 3学年の生徒が地域の課題解決方策等について町に提言
- (5) 地域課題の解決に向けた考察の結果を情報発信する探究学習へと改善
- (6) 各教科と室蘭工業大学の連携授業の内容の関連性や難易度の設定を整理し、育成を目指す資質・能力の向上に効果が現れるよう工夫・改善
- (7) STEAM委員会を中心に、教科等横断型学習単元配列表を作成
- (8) 新学校設定教科・科目のシラバス・ルーブリック等の必要事項を作成
- (9) JAXAのエアロスペーススクールのプログラムに参加生徒のほか、プログラムの一部を他の生徒にも提供

【取組状況】

○実施
△一部実施

- (1) ○
- (2) ○
- (3) ○



- (4) ○
- (5) ○
- (6) △
- (7) ○
- (8) △
- (9) △

【成果と課題】（○成果、●課題）

- 学校設定科目の先行実施により、地域の基幹産業である第一次産業をはじめとする地域の多様な産業を題材に、他者と協働しながら地域の課題解決に向けて探究する内容への改善を図る必要があることが分かり、当初に計画していた学校設定科目「情報と宇宙」（2単位）から「地域デザイン」（3単位）に変更した。
- 大樹町が取り組んでいる航空宇宙産業誘致による町づくりに主体的に参画する生徒の育成を目指すため、より一層総合的な探究の時間と関連させ、体系的に探究活動をすることが可能な内容とした。
- 学習内容が増えることにより、単位数を3単位とし、2学年で2単位、3学年で1単位の継続履修とする教育課程を編成した。
- 次年度は、「地域デザイン」の具体についてより明確化し、総合的な探究の時間との体系的な探究活動の内容について、コンソーシアムメンバーの支援・協働体制の充実を図る必要がある。

【岩手県立大槌高等学校】地域社会学科（学科名：地域探究科）（令和6年度設置）

事業構想

「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」を実現し、
「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う
魅力的な学びの環境を地域と共に創る

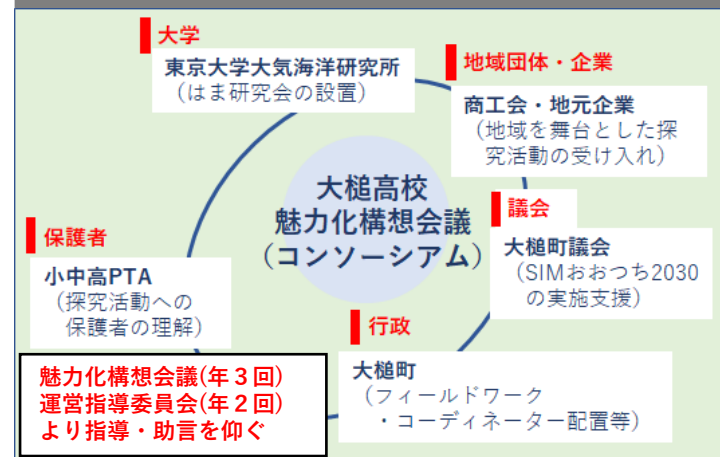
事業目的

- ・多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現
- ・復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現

特色・魅力ある教育の概要

- ①生徒自らが選択・調整できる学び
- ②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる
- ③放課後等の学校外に広がる探究的な学び
- ④個別最適なりメディア教育の実践

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和5年度の目標

①新学科開設に向けて校内体制の整備

- ア) デュアルシステム、社会教育の単位認定、セルフラーニングタイムを中心とするカリキュラム開発
- イ) 個別最適な学びについての検討
- ウ) 中学生とその保護者・地域に向けて新学科の効果的な周知

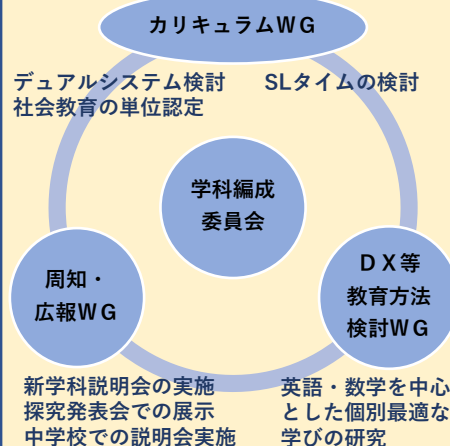
②地域を題材とした探究の実践と充実

③先進校事例の収集と情報交換の実施

④コーディネーターの有機活用

取組状況

①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置



②地域を題材とした探究の実践と充実

- ・地域探究の取組を町議会、地域公民館で発表し、地域の声を聴く機会を得た。
- ③先進校事例の収集と情報交換の実施
- ・全国の13校と交流を深めた。
- ④コーディネーターの有機活用
- ・探究活動の企画、推進役として、地域協働を推し進めた。CDN研修参加。

成果と課題

①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置

成果：新学科設置に向けて全教員が事業に主体的に関わる体制づくりの構築（全体）カリキュラム実施・推進に向けて4つの小WG内（デュアルシステム、社会教育の単位認定、セルフラーニングタイム、個別最適な学び）で検討（カリキュラム）生徒・保護者の声を受けた個別最適な学び（英語・数学）の検討（DX）学校説明会実施校、取組展示の機会を増やし、新学科の周知を図った（周知・広報）
課題：教員異動に伴う教員間の温度差を埋めるための円滑な取組の継承（全体）デュアルシステム、社会教育の単位認定に向けた関係機関との調整（カリキュラム）個別最適な学び（英語・数学）の授業化に向けた教員間の連携（DX）地域の小中学校教員に新学科に関する理解をいかに深めてもらうか検討（周知・広報）

②地域を題材とした探究の実践と充実

成果：生徒自ら地域に出て、地域の人々の前で発表し、協働することで、自らの人生を切り拓き、挑戦しようとする生徒が増加
課題：地域との協働が進むほど、特定の生徒・グループに負荷がかかってしまう

③先進校事例の収集と情報交換の実施

成果：多くの学校と探究活動、地域との連携、教育課程、職業体験、県外留学について意見交換を行い、本校の教育活動にいかせた
課題：より多くの教職員が他校交流に参加できる体制の構築

④コーディネーターの有機活用

成果：探究活動のさらなる充実を図り、地域と学校を繋ぐ役割を担った
課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネータースキルの教員への伝達

⑤高校魅力化評価システムの調査結果

成果：やりたいことの増加、社会性、チャレンジの気持ち、協働性のウェルビーイングが高値となり魅力的な学びの環境を地域と共に創るという構想の具現化を確認できた
課題：調査時期が大幅に早まったことで前年同時期比較ができなかった

【浜松学芸高等学校】探究創造科（地域社会学科）（令和6年度設置）

学科設置の目的と概要

- 文系・理系の両系統から地域とともに系統的な探究的な学びを展開する新学科の設立
- 探究創造科は地域創造・科学創造の両コース統合し地域社会に対して多面的な学びを展開
- 多様な価値観が共有されるSociety5.0の世界に向け、生徒が文系と理系の学びの垣根を越えた教科横断的な学びや価値観を共有
- 地域での学びを通じて将来のライフキャリアを形成

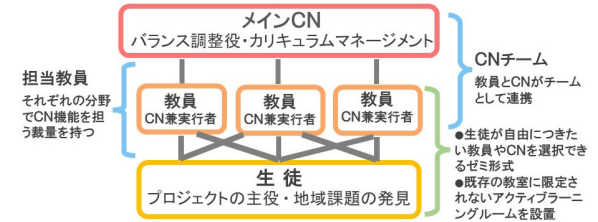
CNIによる連携と協働



高校生 企業
地域課題の発見 アドバイスの提供
企業と地域の連携の推進
企業と地域の連携の推進
企業と地域の連携の推進

◀企業が参画しやすいイベントで来校機会を増加

▶CN機能を分散させることで多彩な協働が可能になるとともに学びの環境も変化



- CNを中心として外部との連携を行うと同時に、企業との直接的な授業構成などCN的な役割を教員に委譲することで、多彩なプロジェクトの実施が可能に
- 外部企業と学校をつなぐイベントを開催して参画のハードルを下げる

R5年度目標と状況

- 地域での学びを、既存の地域創造・科学創造の両コースを融合させた教科横断的・系統的な学びのカリキュラムとして再構築
- 地域企業や専門機関と連携したプロジェクト型学習を実施
- ARTの観点を重視して成果を地域に還元
- 実施プロジェクトを教材としてパッケージ化し、他校との協働で拡散

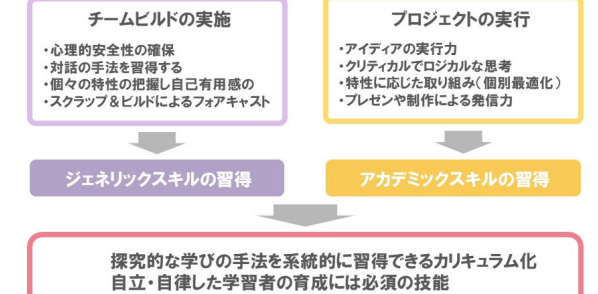


- 実施プロジェクトの数の拡大と学びの質の変化に繋がる
- 開発したプロジェクトの他校で実施や双方の学校を交えてのプロジェクト実践など、これまでにない拡散へ発展

成果と課題



▲系統的カリキュラムのイメージ



- 教材としてパッケージ化(様々な教科で実施できる教材としてストック)
- 授業として年間授業カリキュラムに盛り込み運用(現在20種の開発を完了)

▲学びのためのスキル習得を教材化

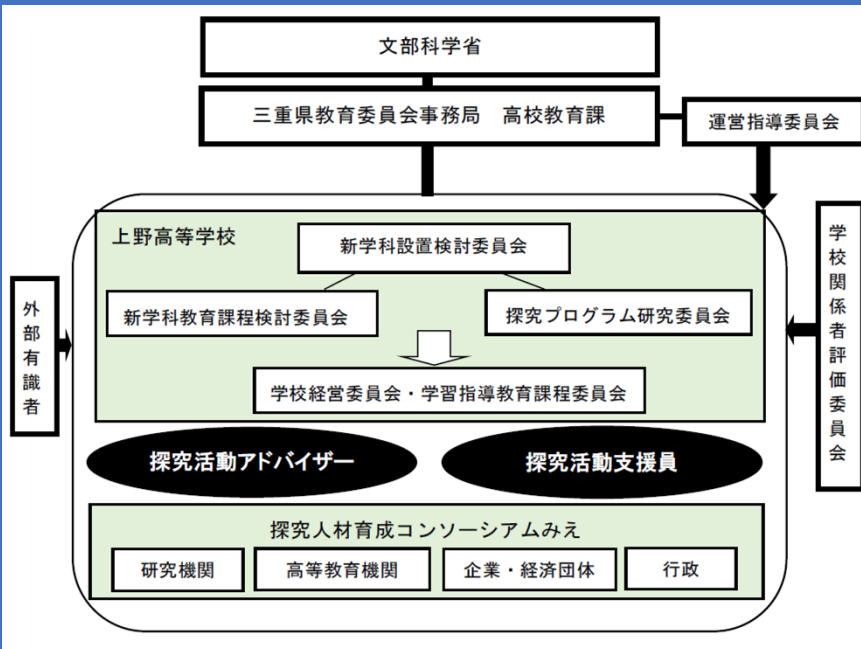
- 学校設定科目を利用した3年間の探究的な学びを構築することができた。その一方で、実施プロジェクトが多くなり、そのマネジメントについては今後の課題として残った。
- 探究的な学びにもレディネスが重要で、探究のためのスキル・そしてマインドの醸成を図るためにチームビルドの教材化に成功した。しかし、教材作成や指導計画など負担も多くなった。

【三重県立上野高等学校】学際領域学科（令和7年度設置（予定））

1 学際領域学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

- ・ 伊賀地域は、古くからの伝統・文化が残るものの、少子高齢化が進んでおり、地域の将来そのものが危惧されている。
- ・ 上野高校には地域の活性化だけでなく、人材育成、学力保障等、多くの期待が寄せられている。
- ・ 学際領域学科では、地域の期待を踏まえ、「伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける人材」の育成めざす。
- ・ 現代的な諸課題のうち特にSDGsやSociety5.0をはじめとした、これまでの学問領域・分野では対応できないような、複合的かつ学際的な課題に対応していくために、「探究人材育成コンソーシアムみえ」の支援のもと、国内外を学びのフィールドとした体験的・実践的な教育活動を展開する。

2 関係機関との連携・協働体制の構築方法



3 令和5年度の取組状況と成果

「社会の形成者としての自覚と責任を持ち、他者と協働しながら、解決に向けて主体的に行動する力」の育成

1 カリキュラム及び教育方法の開発

- ① 探究を核とした教育課程の実現
 - ・ 新学科設置検討委員会等において、教育課程や学校設定科目、探究プログラム等についての検討
- ② 文理が融合した新たな学びの実現
 - ・ SDGsに関する学習プログラムの検討（オンライン国際交流、地元のグローバル企業訪問）
- ③ 国内外をフィールドとした実践的な学びの実現
 - ・ 上高Feel度Shotのブラッシュアップ
 - ・ 国内フィールドワークとしての「探究合宿」の検討
 - ・ 世界を知って、日本・伊賀の良さを知るために、海外への修学旅行の検討

2 探究共創ネットワークの構築

- ① 外部の教育力の活用
 - ・ コンソーシアムの委員を招聘した授業を実施
 - ・ 探究活動における大学生メンターの支援
 - ・ 地元のグローバル企業への訪問（工場見学、海外社員との対話等）
- ② オンラインを活用した学びの充実
 - ・ 海外の学生等と交流する国際交流プログラムの実施
- ③ 学校を越えた高校生等との協働
 - ・ 県事業「みえ探究フォーラム」での発表、評価、交流
 - ・ 「Mie SSH Research Presentation」での発表（英語）、交流

4 令和5年度の課題

- ・ 「探究人材育成コンソーシアムみえ」との更なる連携強化と効果的な活用方法の蓄積
- ・ 中学校や地域への広報活動の更なる充実
- ・ 上野高等学校の特色・魅力ある教育活動の認知度の向上
- ・ 外部指標等を効果的に活用し、取組と資質・能力の伸長に係るデータの蓄積と検証結果の活用
- ・ SDGsの視点や探究的な手法を踏まえた各教科の学習の充実
- ・ 身につけさせたい資質・能力を明確にしたうえで、実践事例の蓄積

【京都市立開建高等学校】ルミノベーション科〈地域社会学科〉（令和5年度設置）

設置の目的

- ◆学びのモチベーションを高める探究的な学びを重視したカリキュラムの構築
- ◆京都の都市特性を最大限に活かし、未来を創造する力を育む教育活動の確立

特色・魅力ある教育の概要

(1) 授業が変わる

- ◆未知のことや課題に対して生徒が自分で問いを立て、解決の方法を見出す探究的な学びを重視し、生徒の「学びたい」という意欲をかき立てる授業を行う。また、仲間や社会との対話・協働を通じた学びも重視し、多様性を大切にすることを涵養する。
- ◆1つのラーニングポッド（L-pod）での活動は複数の教員で指導し、生徒を多面的にサポートし、生徒一人ひとりに応じた学びを支援する。
- ◆机を自由に配置できる普通教室4つ分の広い学び空間<L-pod>を新校舎の特徴的な設備として整備し、教室のサイズ・形態を自在に変化・転換し、授業の目的や活動内容、また生徒の学びやすさによって、多様な学習活動を展開する。

(2) 魅力あふれる京都をフィールドに実践する探究活動

寺社仏閣や伝統文化、企業のまち、大学のまちなどの都市特性を存分に発揮し、幅広い機関と連携して、生徒が京都で学ぶ価値を享受できるように、多様で奥深い京都の都市特性に触れるフィールドワークや、課題の発見と解決、京都のさらなる魅力発信にも寄与する探究を行う科目を設定し、3年間を通して生徒が探究活動を行う。

(3) 生徒が夢中になれる課外活動

生徒が自由に活動を企画できる「New HORIZON Day」、地域や大学等と連携した活動プログラムなど、生徒自身がやりたいことに主体的に挑戦できる課外活動の機会を地域協働コーディネーターと協力し創出する。

関係機関との連携・協働体制の構築方法

地域協働コーディネーター

- (1) 授業の企画・運営の助言・支援
- (2) 地域協働のネットワークの強化

京都市立開建高等学校

魅力あふれる京都

地域協働コーディネーター
高校コンソーシアム京都

地域協働のアクターとなる企業、団体等

- ・京都市南区周辺のグローバル企業・中小企業、行政、任意団体と広く連携
- ・高校コンソーシアム京都や京都市、中小企業家同友会等を通じたきめ細かな協力体制

令和5年度の目標

- ◆L-podにおける複数教員による対話・協働を軸とした指導を実践し、個に応じた支援を通じ、生徒の主体的な学びを具体化する。さらに、コアスキルを意識した探究的な学びを実践し、生徒の確かな学びと意欲の向上を図る。
- ◆京都をフィールドとした探究活動を行い、生徒が京都の魅力を感じ、地域で活躍する企業、大学、団体等が大切にしている理念や志を受け、高校生ならではのアプローチで未来社会の創造に向かう探究活動を展開する。
- ◆生徒の「やってみたい」を実現する課外プログラムを実施し、多様な視点を持つ人と協働・交流しながら、意欲・実践力を高める体制を構築する。

令和5年度の実行状況

- ◆L-podを活かした多人数指導体制の構築と推進、教職員研修の実施
- ◆教科を横断した探究的学びの推進
- ◆「京都探究」など地域をフィールドとした探究学習の実施
- ◆「コアスキル」を習得・活用するプログラムの編成・実施
- ◆地域協働コーディネーターの活用による地域との連携強化
- ◆生徒の「やってみたいをやってみる」課外活動を推進、定着させていく指導体制の構築
- ◆他の指定校、大学等と連携した幅広い「やってみたい」の機会創出

成果と課題

- ◆複数教員による指導体制のあり方のモデルを複数確認した。さらなる実践と研修を通じ、継続的な生徒の変容の分析と実施体制の充実を進める必要がある。
- ◆生徒の主体的な学びを推進し、それを生徒が自ら振り返って把握するための非認知能力の測定や、「キャリア・パスポート」の刷新による学びの言語化の拡充を行った。
- ◆京都をフィールドとした探究を推進し、生徒一協力企業のWin-Winの可能性を確認した。生徒が多様な発想を巡らしながらも、真に活躍する大人の世界の深さを知り、興味を伸長する姿を確認した。ここから生徒がさらなる「やってみたい」へとつながるための支援方法の模索が課題である。
- ◆地域協働コーディネーターを活用した連携構築の結果、地域の企業・団体等との連携は昨年度比21社増加。生徒が自ら連携を打診したことで、関心を持っていただくケースも見られた。
- ◆生徒の「やってみたいをやってみる」課外活動は学校外をフィールドとした多様な学びとなっている。件数や活動規模の拡大と、なかなか勇気をもって踏み出せない生徒への個別の支援体制の構築が課題。

【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・地域科学探究科（令和6年度設置）

● 「地域科学探究科」（地域社会学科）

育成する
資質・能力

- ・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質・能力
- ・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力
- ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力

【特色ある教育活動】

- ・地域を対象とした探究活動の展開、論文作成・発表
- ・英語を含めた表現力を活用した地球規模の課題解決へのアプローチ

令和5年度の成果

総合的な探究の時間の開発

【主な取組】

- ・「丹BALⅠ」（第1学年）
新たなテキストや講演会等による探究の手法の習得し、ミニ探究から基礎実践探究
- ・「丹BALⅡ」（第2学年）
「丹BALⅠ」で培った力を利用し、自己の興味関心に基づいた応用実践探究
- ・「地域課題から世界を考える日」の開催（校内）
「知の探究」発表会（校外）
- ・探究記録集の発行

【課題】

- ・関係機関等との連携
- ・探究活動と各教科の授業との連携

教員の意識・資質向上

【主な取組】

- ・研究推進部の設置と教職員の意識・資質向上研修
- ・研究推進部主導による探究的な学習により、生徒とともに教員のスキルアップも目指す

【課題】

- ・探究活動に対する共通理解及び指導技術の向上
- ・コーディネーター、関係機関と連携した探究活動の実施
- ・探究活動と連携した教科指導の研究および試行

学校設定教科・科目の開発

【主な取組】

- ・学校設定科目「グローバル」の実践
第3学年選択
オンラインによる国際交流
テーマ設定と個人研究の実施
英語によるプレゼンテーション
- ・教科横断型探究の実施内容検討

【課題】

- ・研究成果の引継ぎ、担当外の教員との年間指導計画等の共通理解（探究活動との連携）
- ・学校設定科目「ポスター英語」「教科横断型探究」の年間指導計画の作成

コーディネーターの取組

【主な取組】

- ・コーディネーターによる、校内と外部との調整
- ・外部との連携による、新たな探究活動の提案
- ・令和6年度新学科設置に向けた準備での協力
- ・探究活動を行うプログラム開発の協力、支援
- ・探究活動で的確なタイミングで生徒への助言

【課題】

- ・校内外との連携体制の構築
- ・本事業終了後のコーディネーターの確保

成果普及・情報発信

【主な取組】

- ・学校ホームページでの情報発信
- ・他校との発表会、中学校での発表会への参加
- ・校内発表会や地域イベントの新聞掲載
- ・兵庫県立高等学校探究活動発表会への参加、交流
- ・報告書の作成、配付
- ・視察校の積極的な受け入れ

【課題】

- ・大学等が実施する発表会、研究会等への参加
- ・オープン・ハイスクールや学校説明会等での中学生への説明
- ・教員レベルでの中学校訪問

関係機関等との連携・協力体制

【主な取組】

- ・探究活動等への外部講師の招聘
- ・運営指導委員会の開催
⇒取組に対する助言、指摘等
- ・丹波市役所、丹波市教育委員会等との連携

【課題】

- ・コンソーシアムの構築に向けた取組

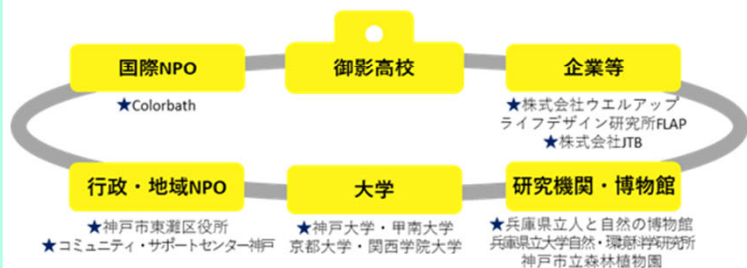
【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科「文理探究科」（令和6年度設置）

学科設置の目的・特色ある教育の概要 / 広がる学び、多彩な未来

校外機関との連携

コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

連携機関（★はMIKAGEコンソーシアム参画機関）



学際的に取組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた探究活動や、地域に関する探究活動に学際的に取組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践

学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

- 1年 Cross I・Creation I
- 2年 Cross II・Creation II
クリティカルシンキングA・Creative Presentation
- 3年 Cross III・クリティカルシンキングB

グラデュエーションポリシー

地域や国際社会のありようをしっかり目に向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や是正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒

人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒

地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取り組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒

- 主体性
- 協働性
- 課題解決能力
- 言語表現スキル
- 多様な認識

予測不能な未来において活躍できるリーダーを育てる

令和5年度の取組成果・課題 / 学科開設準備最終年度

コーディネーターの増員と業務の明確化

・取組 [令和4年度～令和5年度]

コーディネーター配置数 [2名→3名]

3名の業務分担を実施し、各々のスキルが活かせる活動に従事。

・課題

令和7年度以降の在り方の検討
コアタイムの設定
「目指す体制」の確立

広報活動の充実

・取組

中学校71校に訪問・中学校等主催説明会に14回出席
説明会は10日間・20回実施（3300名を超える申込）
県内外の高等学校からの視察についても対応

・課題

広報活動の継続
説明会の実施方法検討
現役生による説明の実施

目指す体制

校外組織
運営指導委員会
カリキュラム開発会議
コンソーシアム会議

援助・助言

コーディネーター

フィードバック

校内組織

特色づくり委員会

アイデア・リソース提供

目的に基づいた実践

特色教育推進部・学年・教科

取組み・成果

文理探究科

mikage senior highschool

令和6年度開設（定員40名）

関係機関との連携強化

・取組 [令和4年度～令和5年度]

コンソーシアム会議数増 [1回→3回]
コンソーシアム参画企業の一部変更
コンソーシアム団体による授業の実施

・課題

さらなる協働体制の構築に向けて、協議を進め、「目指す体制」を確立



コンソーシアム全国本域研修「グローバルコンシャスデイ」

カリキュラム検討・学びの先行実施

・取組

学際的に取組む探究活動を軸としたCross I・II、Creation Iの先行実施
クリティカルシンキングAの開講

・課題

次年度以降本格実施できるよう「試行－検証」を繰り返す、先行実施科目の充実化
次年度より先行実施する科目の実践・検証

【和歌山県立串本古座高等学校】地域社会学科（令和6年度設置）

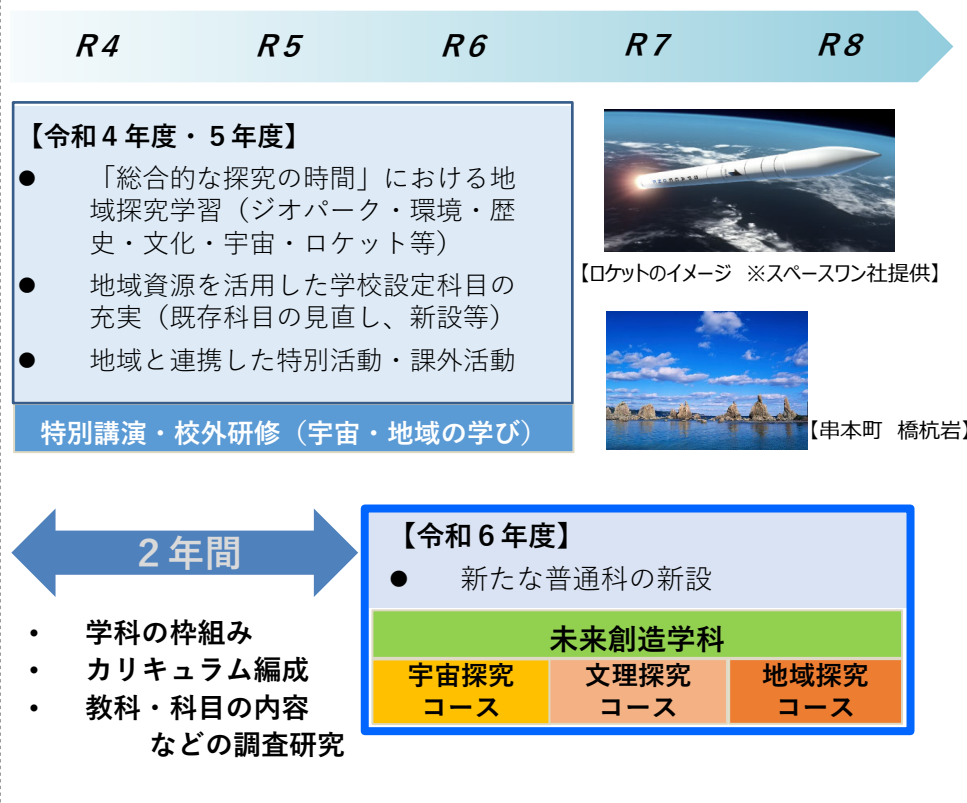
令和6年度入学生からの「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の設置に向けて、段階的に調査研究を実施

《設置の目的》

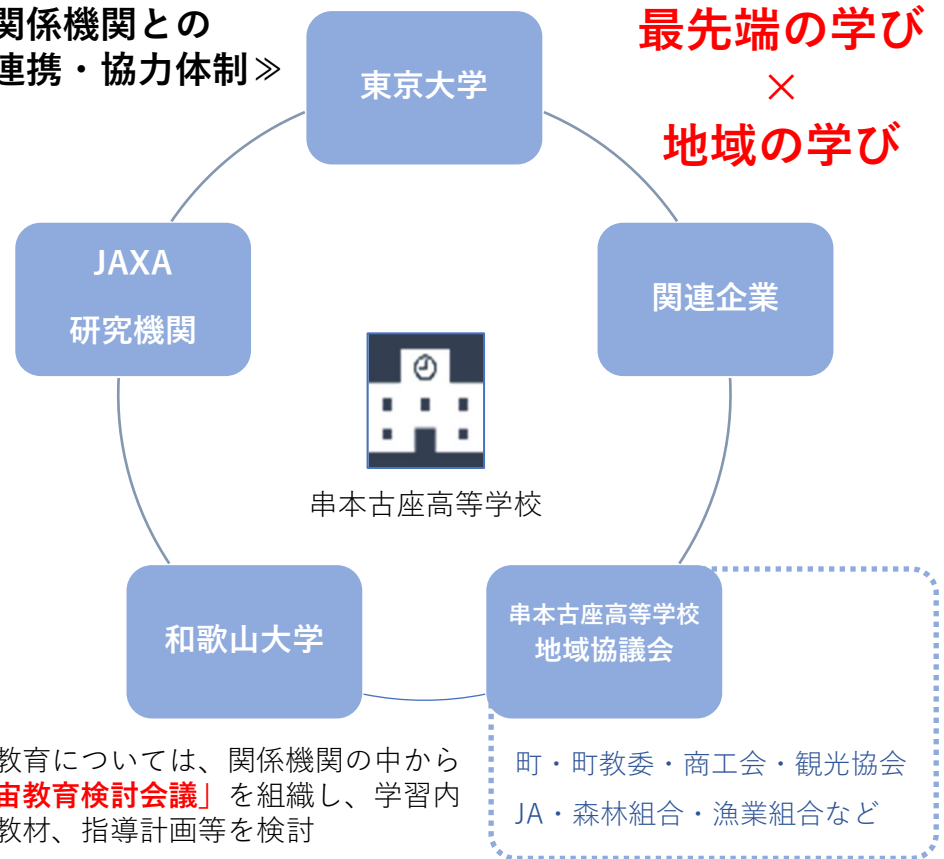
地域の様々な教育資源を活用し、自らの在り方・生き方としっかり向き合い、確固たる世界観や価値観、変化に柔軟に対応していく力、将来への展望等を併せもつ、Society 5.0を生き抜くために必要な力を育成する

清流古座川、ラムサール条約登録地である沿岸海域のサンゴ群落、世界遺産として登録された紀伊山地の霊場と参詣道、南紀熊野ジオパーク、民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」、1890年のエルトゥール号遭難事件以来のトルコとの交流など、地域の多様な教育資源を活用し、「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の3つのコースをもつ**新たな普通科である「未来創造学科」**の設置に向けた調査研究を段階的に実施する

《ロードマップ》



《関係機関との連携・協力体制》



【和歌山県立新宮高等学校】学際領域学科（令和7年度設置（予定））

【学際領域学科設置の目的・育成する人材像】

学際的な学び・文理融合型の学びを実現し、予測困難な現代社会で活躍できる人材を育てるため。

- ①物事を多面的・包括的に捉え、人や自然・文化を大切にできる人材
- ②地元地域や国内外でイノベーターとして活躍できる人材

【学際領域学科で育みたい資質・能力】

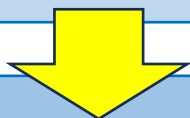
- ①分野にとらわれない幅広い知識・豊富な技能、およびそれらを活用できる力
- ②創造的・批判的思考力
- ③主体性、協働性、市民性

【特色・魅力ある教育の概要】

学際的な学び・文理融合型の学びを実現するため、カリキュラム開発、「総合的な探究の時間」・「くまの学彩」の実践、教科・科目等における教科科目横断型授業・探究的な学びの研究に学校全体で組織的に取り組む

令和5年度の目標

- (A)学際的な学び、文理融合型の学びを実現するためのカリキュラム開発
- (B)「総合的な探究の時間」「くまの学彩」による探究的な学びの充実
- (C)各教科・科目においても探究的な学びを実践するための授業研究



取組状況

- (A)文系・理系のコース選択を撤廃、生徒が学びたい科目を主体的に選択
- (B)令和5年度1学年より「くまの学彩」をスタート

- ◇地域・国内・国外・共通のカテゴリーと観光・歴史・医療・環境・スポーツなどのジャンルを組み合わせ、講演会・校外学習を実施。
- ◇最先端・先人の幅広い知識、ホンモノを体験することで現代社会の諸課題に触れ、興味・関心を刺激
- ◇2年次の探究学習のテーマ設定を見据えるとともに、キャリア教育の側面からもカリキュラムを設計

- (C)令和4年度からの教科科目横断型の授業実践に加え、教科指導における「探究的な学び」の授業研究に着手

【運営指導委員会・コンソーシアム】

和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山県教育委員会、ヤマネ・いきもの研究所、新宮市役所、南紀熊野ジオパークセンター、和歌山県世界遺産センター、東京医療保健大学、新宮ユネスコ協会、東京大学、国立スポーツ科学センター

- ⇒①運営指導委員会における指導・助言
- ⇒②「くまの学彩」での講演・校外学習の企画
- ⇒③「総合的な探究の時間」の課題探究での連携

成果と課題

【成果】

- ◇「くまの学彩」を始動させ、軌道に乗せることができた。「総合的な探究の時間」についても従来の取組を見直し、実践内容を精選・発展的に深化させることができた。

【課題】

- ◇学際領域学科の設置に向け、カリキュラム開発を継続すること。
- ◇探究的な学びをより充実させるための体制づくり。

【和歌山県立橋本高等学校】学際領域学科（仮称）（令和7年度設置（予定））

00

変化する社会の課題に対応し、自己有用感を持ち社会貢献できる人材を育成する



01

多様な価値観との出会いと自らの考察の深化

02

他者を意識したプレゼンテーション作成と発表能力の向上

03

複合的視点における課題解決方法の模索・発信

活動実績

- 朝日新聞講演
- プレゼンテーション講演
- 橋本市役所へインタビュー
- 人権教育講演
- SDGs 大学実施研修
- 企業訪問
- 総合的探究の時間
中間発表
- 地元小学校との交流
- 世界遺産講演・実施研修
- 海外留学生との交流
(和歌山大学)
- 海外留学生との交流
(大阪観光大学)
- 校内全体発表会
- 橋本市役所への提言
- 国内高校生オンライン交流
(北海道釧路湖陵高校)
- 海外高校生オンライン交流
(フィンランド)
(マレーシア)
(台湾)
(オーストラリア)

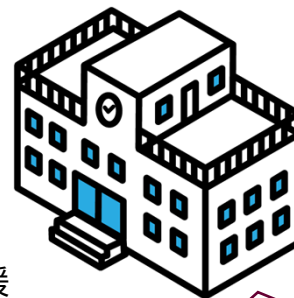
関係機関との連携・協働体制の構築方法

コンソーシアム

公共財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
和歌山大学
JICA
認定NPO法人 日越関西友好協会
橋本市役所
大阪観光大学
株式会社JTB
株式会社スマイリーアース
(令和6年度より所属予定)



海外交流等の支援



指導・助言

運営指導委員会

和歌山教育委員会 学校教育局県立学校教育課
橋本市教育委員会 生涯学習課・学校教育課
橋本市役所 総合政策部政策企画課
公益財団法人 和歌山県国際交流会
和歌山大学 教育学部

コーディネーター

特色教育推進部

世紀の空経理部門

世紀の空
推進実行委員会

【成果】

国内・海外の高校生、国内外で活躍する社会人などの他者の価値観に触れながら研究を深めることを計画し、総合的な探究の時間との相関的な活動として、教科横断授業を組み込んだ世界遺産学習、大学や企業等の外部機関と連携した学習、海外との交流を行うことができた。

【課題】

- ・「世紀の空」と「総合的な探究の時間」の効果的な連携と運営方法の構築、各教科等との関連付けなど、カリキュラム・マネジメントを充実させる。
- ・他の学校行事との重複を考慮し、講演・実地研修の時期・内容を見直すことにより、事前・事後の学習時間を確保するとともに、さらに広い視野での課題設定力とデータに基づいた論理的な発表力を強化する。
- ・高等教育機関、企業などの外部機関との連携を強化し、継続的なものにするとともに、留学生や国内外の高校生との意見交流、討議をさらに促進する。

【島根県立隠岐島前高等学校】 地域社会学科（令和4年度設置）

設置の目的

離島に位置する申請校および隠岐島前地域の育てたい人材像である「グローバル人材」の育成に向けて、これまでよりもさらにグローバルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備するため。

特色・魅力ある教育の概要

「島まるごと学校」をコンセプトに約15年間地域をフィールドに海外の視点も入れながら、地域課題解決型・価値創造型の探究学習を推進し、地域内だけでなく、全国・海外から集まる生徒の多様な興味関心や価値観で切磋琢磨しながら学ぶ土壌がある。



関係機関との連携・協働体制の構築



学校経営会議
(本事業を学校経営に位置付ける)



共創DAY運営チーム
(教員・コーディネーター)



推進協議会(学校運営協議会)
(事業進捗について地域の方とも共有)



運営「共創」委員会
(外部有識者とカリキュラム共創)

令和5年度の目標・取り組み状況

本構想において実現する成果目標（アウトカム）	R5目標	達成状況
卒業後のグローバルな進路選択者 (スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合)	15%	18.6%
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口数）	15人	22人
地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）	R5目標	達成状況
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75%以上	76%	主体性:68.3% 協働性:79.7% 探究性:74.3% 社会性:72.6%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上	80%	主体性:79.0% 協働性:81.0% 探究性:75.9% 社会性:75.2%
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上	88%	主体性:94.3% 協働性:92.6% 探究性:89.3% 社会性:86.0%
学び共創フォーラムへの参加者数	75人	9月：76人 3月：45人

成果と課題

【成果】

- 独自の伴走・支援体制構築と運用
- 成果目標(アウトカム)に関し、目標値を上回る進路実績
- 成果目標(アウトプット)に関し、地域共創科生徒の自己認識の大幅な伸び

【課題】

- ゼミの効果的な機能
- 新学科に関する地域の理解・浸透
- 伴走を支援する人的リソースの追加・確保
- 生徒一人ひとりの活動の継承、アーカイブ化

【愛媛県立三崎高等学校】社会共創科（令和6年度設置）

【目的】

- ・ **変化の激しい社会を**
たくましく生き抜くことができる人材の育成
- ・ **地域社会とつながる人材の育成**
- ・ **地域社会学を教育課程に位置付けた**
STEAM教育・キャリア教育の推進

【特色・魅力ある教育の概要】

- ・ **みさこうSTEAM教育** ・ **地域社会とつながる授業**
- ・ **みさこうせんたんプロジェクト**

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

- （運営指導委員会）
 - ・ 三崎高校における本事業の運営に関し、専門的見地から指導・助言・評価等を実施
- （県教育委員会）
 - ・ 地域魅力化コーディネーターの配置
 - ・ コンソーシアムへの参画
 - ・ 「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」など、県が実施している事業への参加に係る支援

【令和5年度の目標】

- ・ 「今を創る、未来を変えるトライブ」の実施
- ・ 「地域特別講師データベース」の作成
- ・ 「教科等横断型授業」の実施
- ・ 社会とつながる教育課程の編成

【取組状況】

- ・ 「今を創る、未来を変えるトライブ」を令和5年12月18、19日に実施。**県内外から7校が参加**
- ・ インターンシップの受け入れや「未咲輝（みさき）ゼミ」講師依頼等で「地域特別講師データベース」を活用
- ・ 学校訪問研修に合わせて、全授業で教科等横断型授業を実施
- ・ 新学科の設置に伴い、**新しい教育課程**を編成

【成果】

- ・ **令和6年度に設置する「社会共創科」**において、授業時間数を週33単位から週**29単位**に変更するとともに、**探究活動を軸とした新たな3コースに改編**
- ・ コーディネーターの配置による事業推進体制の強化
- ・ 「地域特別講師データベース」の活用による**連携人材の増加**
- ・ STEAM教育、教科横断型授業に関する職員研修及び実践

【課題】

- ・ スケジュールの管理・調整
- ・ 全国から入学してきた生徒たちとの高校卒業後の連携
→ **ICTやオンラインを活用した「オンラインせんたん部」「花橘会（卒業生のオンライングループ）」**など、支援組織の構築

【新しい取組の計画】

- ・ 「今を創る、未来を変えるトライブ」…**地域や人・モノの魅力を再発見し、その価値を発信していく力を育成する**ための高校生フォーラム
- ・ 「未咲輝（みさき）ゼミ」…放課後等の時間に外部人材を講師として、**生徒の興味・関心に合わせた、より自走性の高い探究活動**を行う。今年度は2講座を先行実施、来年度は10講座程度開設予定
- ・ 「jobフェアinみさこう」…本校2年生及び伊方町出身の大学2年生を対象とした**伊方町・八幡浜市の企業による合同企業説明会**

【高知県立清水高等学校】 未来共創科（仮称）（令和7年度設置（予定））

清水高校の学際的学び「ジョン万次郎×SDGs」

SDGsについて、ジョン万次郎の生き方や考え方と重ね合わせながら探究する。また、小中高が一貫して取り組むことができるような系統的なカリキュラムを開発する。

目指す人物像 21世紀のジョン万次郎

- ①自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、横断的に学び、専門性にとられない柔軟な思考を身に付けている。
- ②課題や目的を自ら設定し、国際的な視野で問題を解決しようとする態度を身に付けている。
- ③多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を身に付けている。

令和5年度の目標

- ①特定の分野に偏らない学びを実現させるため、文理融合した教科等横断的なカリキュラムを開発する。
- ②最先端の科学を学ぶため、自然科学・社会科学・人文科学等の分野について、大学、研究機関、官公庁、民間企業等と連携する。
- ③国際的な視野を身に付けさせるため英語教育を充実し、国際交流を促進する。
- ④コンソーシアムと連携し、学校内外が一体化した教育活動を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現する。



「論理国語と地理総合による教科等横断的な実践」



「SDGsに関する探究的な実践」



「グローバル人材育成を目指した実践」

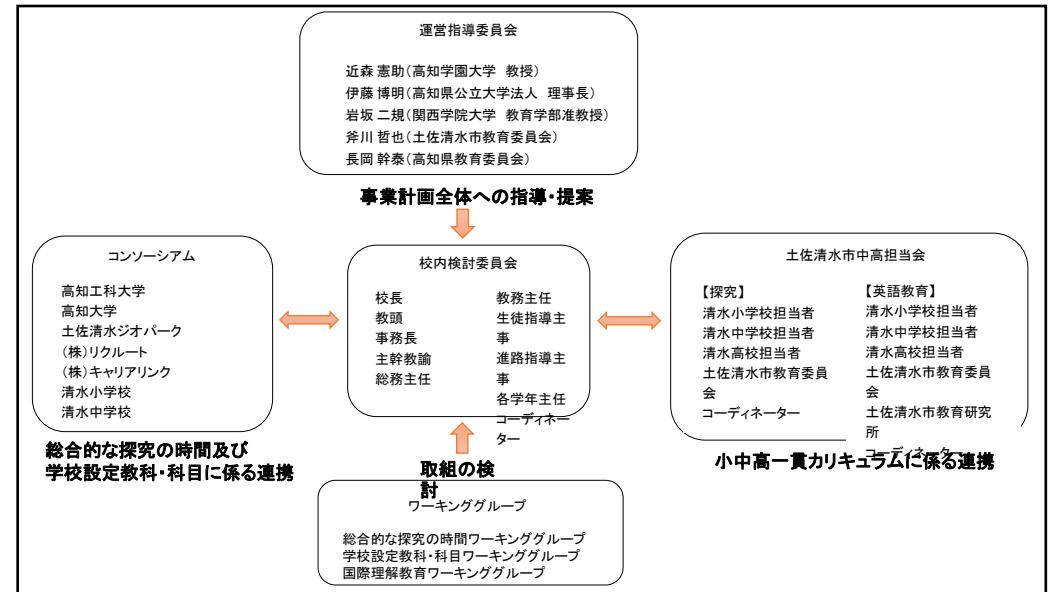
教科等横断的な授業実践を通して、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用し、課題の発見・解決に結び付けていく資質・能力を育成する実践事例

外部機関と連携し、SDGsの目標実現に向けた取組を検討するとともに、地域の課題や地域の魅力を発信する実践事例

海外への短期留学や、海外姉妹都市校とのオンライン交流を通じて、実践的な英語力を身に付け、国際的な視野を育成する実践事例

推進体制

運営指導委員会からの助言等を校内検討委員会において具体的に取組案として策定し、コンソーシアム及び小中高担当者会で実践例に係る協議を行い、実践する。



成果

- ①論理国語と地理総合の授業において、教科等横断的な授業実践を行うことで、他教科とのつながりや、SDGsの目標に結びつく提案授業となった。
- ②フェアヘイブンへの短期留学や台湾現地校生とのオンライン交流を通じて、異文化理解を深めることや英語での発信力を高めることにつながった。
- ③運営指導委員からの助言により、土佐清水の地域課題を踏まえた探究活動の見直しにつながった。
- ④地域連携コーディネーターを配置したことにより、地域人材を活用した探究実践が増えるとともに、生徒の探究活動の深化につながった。
- ⑤コンソーシアムとの連携・協働した取組の実践により、専門家による探究の講義や、土佐清水の恵まれた地域資源を活用した学びの実践につながった。

課題

- ①小中高連携した探究の取組を進めているものの、連携した実践事例は少ない。各校担当者間を通じてさらに連携した取組の必要がある。
- ②大学や研究機関等との連携の機会が不十分であり、コーディネーターを中心とした連携体制を再考する必要がある。
- ③地域や保護者等に向けた情報発信の機会が少なく、新学科の目的や取組等の理解が進んでいない状態にある。新学科に対する理解を促すための広報活動が必要である。

【福岡県立八幡高等学校】学際領域学科(令和6年度設置)

スクール・ミッション 自身の幸せな人生と、未来の幸せな社会を、しなやかに創造する心豊かな人材を育成する学校

文理分断的思考からの脱却

持続可能な社会をしなやかに根気強く創ろうとする姿勢

教科科目横断型授業

複数の教科科目を融合することで初めて見えてくる物事や事象の諸相を分析することで、学問と社会との繋がりや、生きる上での学問の意義を感得させ、自ら主体的に学問に向き合っていく姿勢を育成し、実践につなげる。



夢現∞プロジェクト

SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識、技能の習得と、その活用に関わる思考力、判断力、表現力を育成し、実践につなげる。



特色ある教育活動

コーディネーター

- ① 学校と地域をつなぐ調整役
- ② 教員と生徒をサポート

運営指導委員会

管理機関・行政機関・教育機関で構成される

- ① 学校行事や教育活動に関する指導・助言
- ② カリキュラム検討に関する指導・助言
- ③ 事業全体に関する指導・助言

指導・助言

コンソーシアム

八幡高校・行政機関・教育研究機関・地元企業で構成される

- ① カリキュラムの検討
- ② 評価方法に関する検討
- ③ 事業進捗状況の確認
- ④ 探究活動への指導・助言
- ⑤ 生徒探究活動への参加協力



関係機関との連携・協働体制の構築

令和5年度の目標と取り組み

- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新学科「文理共創科」設置の準備と関係機関との協働体制の継続 ○特色ある教育活動の体系化と外部への情報提供(公開授業等)推進 | <p>〈取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意識調査の実施 ○定例会議(校内・運営指導委員会・コンソーシアム運営会議)の実施 ○教科科目横断型授業と夢現∞プロジェクト成果発表会の公開 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

令和5年度の成果と課題

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多角的な視点を持ち対話することの大切さを実感している(意識調査結果) ○多様な視点から指導・助言を頂き、産学官協働体制が強化された ○特色ある教育活動の成果を、広くPRすることができた | <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラムマネジメント(主に評価)に関して検討を継続する ○新たな関係機関との連携を密にし、専門的な視点から指導・助言を求める ○次年度も継続して、校外への公開授業等を推進する |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【北九州市立高等学校】 地域社会に関する学科「未来共創科」（令和6年度設置）

新学科設置の目的

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、
「産・官・学・民」と連携・協働しながら、
絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。



令和5年度の目標

【対 市民、ステークホルダー（中学生等）】

- 新しく生まれ変わる本校の取組の周知、理解促進
- スクール・ポリシーの策定・公表
- これまでの入試のあり方の見直し

【対 校内（教職員、生徒）】

- 教職員との共通理解
 (探究的な学びの重要性など)
- 新カリキュラム案のプレ実施
 (自前から外部との連携・協働へ)
- そろえる教育から伸ばす教育へ
- 生徒と共につくる「シン・イチリツ」

取組状況

- ✓ PR動画の製作・放映、SNS等の活用
- ✓ 教職員の柔軟かつ斬新なアイデアを盛り込んだ魅力的な広報活動
- ✓ 夜間実施の保護者説明会（初）
- ✓ 学則改正（Web出願が可能に）
- ✓ スクール・ポリシーを踏まえたコミュニケーション重視型の特色化選抜
- ✓ コンソーシアム及び運営指導委員会の開催
- ✓ コーディネーターの配置（3名）
- ✓ 北九州市立大学からの長期学生インターンの受入れ
- ✓ リーダーシップ研修の実施
- ✓ 九州栄養福祉大学及び西日本工業大学との連携協定の締結（食を通じた地域課題の解決、esportsなど）
- ✓ 外部人材による出前授業等
- ✓ 福岡県中小企業家同友会との連携による共育型インターンシップの実施
- ✓ 大学や中小機構と協働した起業家教育の推進

成果と課題

(○：成果、●：課題（R6への持ち越し）)

- 新しいことへのチャレンジを楽しむ教職員の増加
- 変革を楽しむ大人（教職員）を見て「私たちもやりたい！」が増えてきた生徒たち
- 「一緒にやりませんか？」の依頼の増加
- 特色化選抜における志願倍率の上昇
- リーダー生徒が他の生徒を引っ張る体制の構築
- Web出願方式、入試の検査方法、選抜方法の更なる改善
- 大学や行政、企業などからの依頼対応（取捨選択の難しさ）
- 新しい学校設定教科の実証のほか、学校で行われるすべての教育活動の改善・発展
- 生徒の主体性に焦点を当てたカリキュラムの継続及び持続的な発展

【長崎県立松浦高等学校】地域科学科（地域社会学科）（令和4年度設置）

目的

地域社会の未来を担うリーダーの育成
～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

目標

- Ⅰ 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- Ⅱ 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- Ⅲ 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

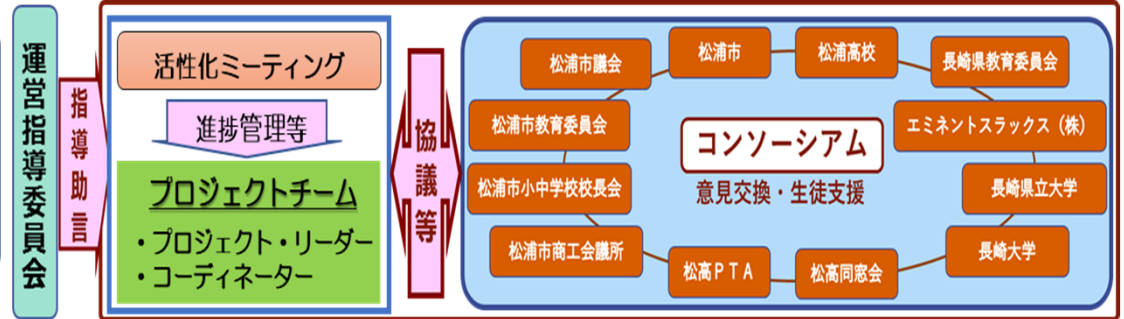
特色・魅力ある教育の概要

地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む

（研究テーマ例）

- 民話を活用し地域活性化～カッパの頭と松浦の経済に潤いを～
- 農業支援～長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる～
- 廃校を活用して自然の家にする～松浦あじおブの自然学園～

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和5年度の目標

実施内容（取組状況）

令和5年度の成果（○）

令和5年度の課題（●）

計画Ⅰ

キャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価基準の検証・改善・各教育活動への反映

- 自分たちの興味・関心に基づき課題を設定し、その解決策を発表した。
- ルーブリックに基づいて、各活動の振り返りの際に自己評価を行った。
- 「松高ポートフォリオ」に、各活動の振り返りを記入した。

- 各プロジェクトの進捗状況を確認しながら、ルーブリックによる自己評価を行うことができた。
- 大学との協働により、身に付けさせたい資質・能力ごとにルーブリックを再構成することができた。

- 各プロジェクトに対する教員（ファシリテーター）による支援の在り方についての共通理解が不十分である。そのため、生徒に自らの成長等を実感させることが十分にできなかった。

計画Ⅱ

前年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動への支援の検証・改善

- 長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ。
- 発表会に地元の社会人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言をもらうことができた。
- 小・中学校でプロジェクトの成果を発表することができた。

- 7教科において地域素材を活用した授業づくりに取り組み、中学校との合同授業（地歴・社会）も行った。
- 大学生には複数回発表会に参加してもらうことができた。また、大学訪問を実施することができた。
- 生徒と地域リソースとをマッチングする「まつうら高校応援団」を創設した。

- 課題設定力や課題解決に必要なスキル（データ収集・活用・分析力等）の育成が不十分である。
- 「まつうら高校応援団」の運用など地域との連携の在り方を引き続き検討していく必要がある。
- 大学による支援がその場限りとなっており、より継続性のある関係を構築する必要がある。

計画Ⅲ

「地域高校」ネットワーク参加校における協働・活動の推進

- 県内の高校教員や地域住民も巻き込んで外部講師を招聘した研修会（3回）を実施することができた。
- 立命館宇治中高のWWLコンソーシアムに参加し、情報交換を行った。
- 宮崎県立飯野高校主催のグローバルリーダーズサミット等に、外部の研修会に生徒が参加した。

- 研修会を通じて、学校の魅力化や探究活動に関する情報共有ができた。
- 外部との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた。

- 研修会後の教員間、参加者間での振り返りや意見交換の時間を十分にとれなかった。
- 本校を中心とした生徒交流会を実施することができなかった。（令和6年12月に実施予定）

【宮崎県立飯野高等学校】地域社会学科（令和8年度設置（予定））

地域社会学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

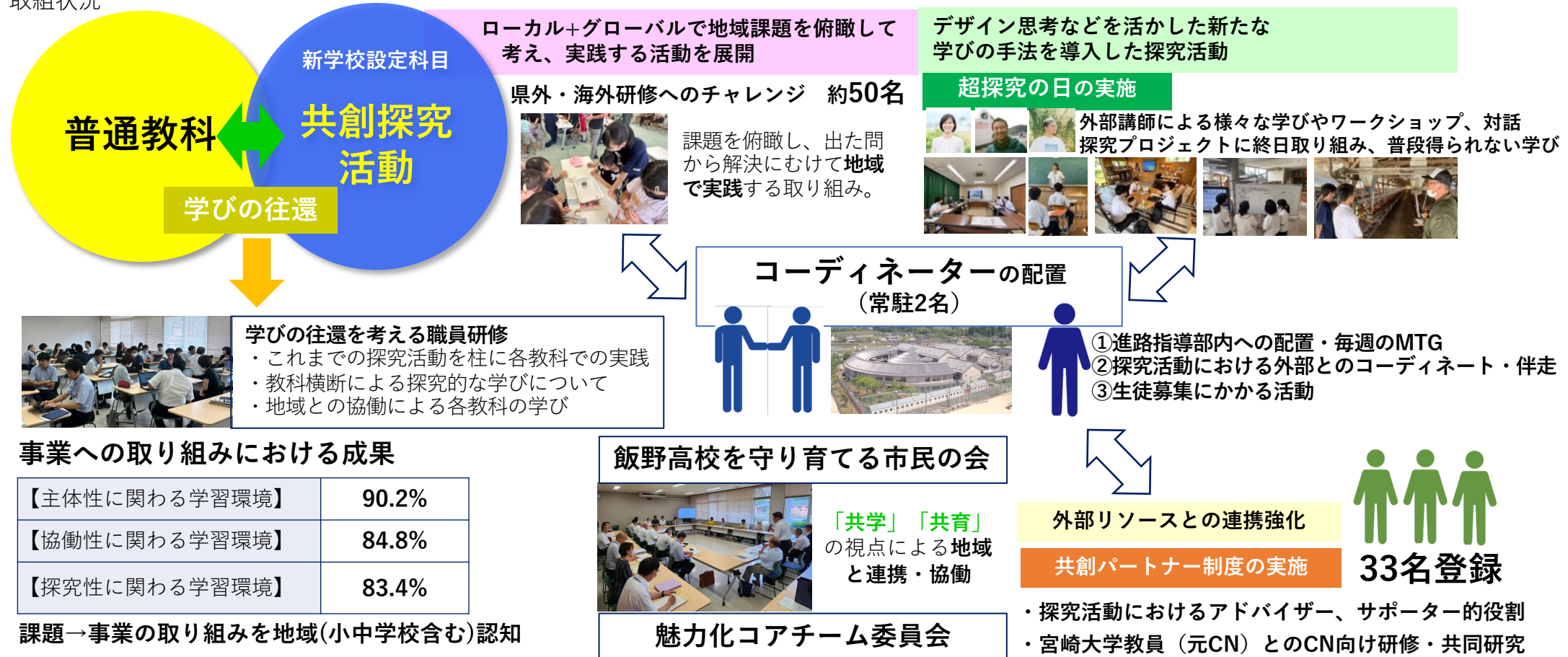
本校の所在地である宮崎県えびの市でも地域社会が直面する様々な課題の解決を図るため、高校と地域との協働による新時代の人材育成に向けた新たな高校づくりが必須である。グローバルな複眼の視点で地域課題を俯瞰・分析し解決に向けてアクションを起こす人材を育成するため、創造的なカリキュラムにより以下を実現する学科の設置を目指す。

- ①次世代に必要な力を地域と共有する学びへの転換
- ②画一的な普通科の在り方を見直し、共学・共育により教育マインドの転換
- ③地域社会の様々な分野におけるリーダーを育成する地域創生の拠点を形成

令和5年度の目標

- ①新学校設定科目のプレ実施と検証
- ②コーディネーターの増員、配置による効果検証
- ③共創パートナーとの連携
- ④新学科における学びのあり方の研究

取組状況



事業への取り組みにおける成果

【主体性に関わる学習環境】	90.2%
【協働性に関わる学習環境】	84.8%
【探究性に関わる学習環境】	83.4%

課題→事業の取り組みを地域(小中学校含む)認知

【熊本市立必由館高等学校】地域社会学科（令和6年度設置予定）

教育理念：自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校を目指す

革新的な教育活動の実践

《育成する資質・能力》

- I 多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- II 社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- III 分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- IV 自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

《特色・魅力ある先進的な教育の取組》

①少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組

多様な生徒へのきめ細かな指導、支援を実現 1クラス30人または35人の少人数によるクラスを編制(令和6年度入学生から)。生徒が主体的・協働的に学ぶことのできる授業づくり

②「学校設定科目 必由学」の新設

持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育み、「Well-being」としての社会情緒的能力などを醸成

③熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実

市役所の全面的な協力体制のもと、市立ならではの教科等横断的・探究的学習

④探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成

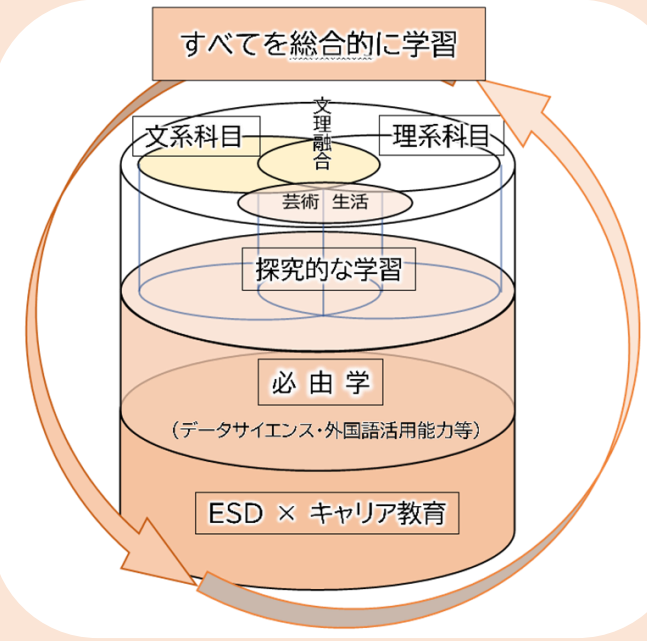
ICTを活用することにより、課題解決に向けデータを科学的に分析・検証し、表現する力を育成

⑤生徒・教師が主体的に学校づくりに参画する Agency School

生徒が授業づくりや校則の策定・見直しなど、生徒が学校創生に参画教育実践及び教育的効果を積極的に国内外に還元するとともに、自らの学びは自らが創る Agency School



『文理総合探究科』での学び（イメージ図）



令和5年度の目標

学校設定教科設置・探究的学習の充実に向けた教育課程の研究開発

職員研修・生徒研修の充実

新学科の設置に向けた広報活動の充実

成果の普及

外部機関との連携体制の構築

令和5年度の取組・課題

学校改革プロジェクトチーム（コア会議(週1～2回) 学校改革プロジェクト委員会(月1～2回))
・年間70回程度実施。・教育委員会のスクール・ミッションの策定を受け、スクール・ポリシーの検討から策定・教育課程の素案作成・広報活動のための資料作成・職員生徒研修の企画運営 などにおいて中心的な役割を担った。教育課程を具現化に向けて引き続き検討を進めていく。校内組織改編の検討を引き続き行う。

「出会う つながる とともに創る ～必由館でやりたいをカタチに～」をキャッチフレーズとし広報活動のキーワードとして活用
・熊本市WEB版広報誌・WEB版学校紹介リーフレット作成・YouTubeチャンネル・必由館X（旧Twitter）
・熊日進学ナビ掲載（地元進学誌）・おはよう熊本市（ラジオ）・こんばんは熊本市（TV）
・学校説明会の開催（夏休中）・芸術コース体験入学・中学校訪問（令和5年8月～10月）

・熊本市教育委員会主催の教育イベント・外部団体企画において全国へ発信
・探究学習成果発表会へ中学1・2年生の生徒会を招待
・芸術コース音楽系：校外のホールを貸し切り成果発表会を実施
美術系・書道系：公立美術館のホールを貸し切り卒業制作展を開催
・生活デザインコース（現：服飾デザインコース）：イベント会場を貸し切りファッションショーを開催

市役所全庁の全面的な協力のもと、地域・社会が抱える課題に対して様々な観点から仮説を立て、専門家や地域の力を借りながら自分の考えを深め、課題解決への糸口を見出す課題探究型の学習を行った。高校生が社会の一員として地域（熊本市）のよさや課題等を自分事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながらよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育むことができるよう今後も取組内容のブラッシュアップを図る。

【北海道岩見沢東高等学校】学際領域学科（令和7年度設置（予定））

目的

- 外部の機関等の協力のもと学際的、複合的な最先端の学問分野の知見に基づく探究的な学びに取り組むことにより、予測困難なこれからの社会の持続・発展に寄与する知識、技能、態度を身に付けた生徒を育成する。
- 総合的な探究の時間や学校設定科目を核としたカリキュラムマネジメント及び教育プログラムの開発に取り組むことにより、地域の期待に応える高校づくりを進めるとともに、本道における普通科新学科校のモデルとなる。

現代的な諸課題を自分事としてとらえ、地域から世界の諸課題へ段階的に学びを発展させる探究学習

GANTO BASIS

空知や北海道における課題と現代社会における諸課題のつながりを理解するとともに、自ら課題を設定し、様々な手法を用いて探究に取り組む。

➤ 学校設定科目の開設

探究学習を支える最新アプローチの習得
 ・「探究基礎」…データの収集分析や思考・表現の方法
 ・「探究応用」…データサイエンス等の理解と応用

GANTO PROGRESS

身に付けた力を地域の課題解決に向けた探究学習に応用し実践するとともに、国内や海外の諸課題など、さらに視野を広げて探究に取り組む。

探究学習の充実

➤ 学際的な学びの実現

柔軟な教育課程と学校間連携
 ・類型にとられない教育課程の編成や、コンソーシアムを活用した学際的な学びの充実に向けた連携協力体制の構築

GANTO PRIDE

探究的な学びで得られたものを自分自身の将来の生き方・在り方につなげ、進路希望に応じた課題を設定し個人で探究に取り組む。

➤ グローバルな視野を育成する学び

異なる文化をもつ多様な他者との学び
 ・大学の留学生など北海道内に在住する外国人等を活用した学び
 ・ICTを活用した海外の高校生等との協働的な学び

特色・魅力ある教育の概要

令和5年度の【取組内容】と【成果】及び【課題】

【取組内容】

- ・岩見沢市内新設校カリキュラムの検討
- ・コンソーシアムの構築と探究学習への活用
- ・コーディネーターの採用とコーディネーター業務の明確化
- ・新設校設立に向けた両校(岩見沢東・岩見沢西)の連携と協働
- ・新設校及び新学科の学びの周知

【成果】

- ・新設校のカリキュラム完成
- ・コンソーシアムの構築及びコーディネーターの活用により「総合的な探究の時間」の内容充実、地域との連携強化
- ・「総合的な学習の時間」の活動の充実(台湾・オーストラリア海外研修含む)
- ・高大連携による交流、事業の展開
- ・南空知学区の全中学校への説明、岩見沢市での説明会の実施による新設校及び新学科について周知

【課題】

- ・両校のさらなる連携と協働
- ・地域への新設校及び新学科に関する情報提供とより一層の理解の浸透を図るための継続した広報活動
- ・総合的な探究の時間と学校設定科目をより一層関連付けた、系統的・発展的な探究活動の実施

コンソーシアムの構築方法

これまでの探究学習、進路指導等でつながった関係機関（連携協議会）を核として、本校同窓会及び地域の行政機関の協力を得ながら、市内の他校とも連携し、岩見沢市内の高等学校における教育の発展・充実に資する連携協力体制の構築を目指す。



コーディネーター

コーディネーター

【愛知県立惟信高等学校】地域社会学科（令和7年度設置（予定））

【設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

地域に根差した様々な探究活動を通して「実践力」と「自立型思考力」を育み、
自分自身、地域・日本・世界の未来を切り拓く力を育成する

- ☆ 「グローバル総合探究」（新設学科における学校設定教科）
⇒ 地域との連携に重点を置いて、社会人として自立し、活躍できる人間力の育成を目指し、「総合的な探究の時間」とのつながりを考慮する
- ☆ 「学びの探究」（新設学科における学校設定教科）
⇒ これまでの高校の教科をより根本的、かつ柔軟に実践し、学ぶことの楽しさを実感できる授業

- ☆ 既存の普通科も含めた学校全体の改善に向けて取り組む「2階建て構成」
⇒ 全学年を通して行われる「総合的な探究の時間」を通して、ネット空間にはない「リアルな肌感覚」ある学びを重視
⇒ 「3つの軸（時間軸・空間軸・人間軸）」を持って取り組む探究活動

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

運営指導委員会


コンソーシアム


愛知県教育委員会


【令和5年度の目標】

- I 事業進行のための土台作り
☆ 事業の目標（ねらい）の設定
☆ 全職員の理解共有
- II 「総合的な探究の時間」の
取組・展望と試行的実施
- III 普通科魅力化プロジェクト
都市型モデルの展望
☆ 全職員による生徒主体参加型の
A L型授業の実施に向けて取り組む
- IV 新設学科の学校設定教科の
検討・実施素案の作成

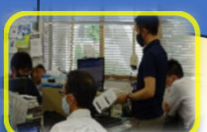
【取組状況】

⇒ 「成果発表会」
「港区改善計画」（2年）


⇒ 「惟信マルシェ」
「地元の宝探し」（1年）


⇒ 教科の魅力発見
模擬授業（3年）


⇒ 「教科会」での話し合い

⇒ 「教員研修会」
教員個々の研修


【成果と課題】

- ☆ 成果 ☆
 - ① 新設学科における「総合的な探究の時間」の試行実施
 - ② 普通科魅力化プロジェクト都市型モデルの草案作りと実施に向けた教員研修と協議
 - ③ 新設学科における学校設定教科の単位数と内容検討
- ★ 課題 ★
 - ① 全職員による事業達成のための意義・目的の共有不足
〈対策〉・全体での話し合い時間の充実
・事業進行のための校内組織の再編
・本校生徒の実態に即した目標の設定
 - ② 新設学科の学校設定教科の具体化
〈対策〉・新規プロジェクトチームによる検討

【愛知県立美和高等学校】地域社会学科（令和7年度設置（予定））

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む “**美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically**”

～地域とともに未来を革新する人材を育てる～

【設置の目的・教育活動の概要】

地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組むとともに、生徒の物事を肯定する力と不安定な時代を生き抜く力を育み、地域の未来の担い手を育成するカリキュラムを編成すること。

七宝焼のように 7つの輝く資質・能力の育成を目標とします

課題発見力 情報活用力 問題解決力 対話力 実践力 思いやり 豊かな人間性

美を知る 1年生

和をつくる 2年生

未来を拓く 3年生

総合的な探究の時間 探究活動

学校設定科目 フィールドワーク

教科等横断的な学び 教科を横断した探究活動の基礎となる知識

【令和5年度の目標】

カリキュラムの研究開発

- ・新学科のカリキュラム案作成
- ・総合的な探究の時間及び学校設定科目の年間指導計画概要作成

地域連携センターの充実

- ・地域連携センター「美和高マインド」のコンソーシアム化
- ・「美和高マインド」役員の拡充

大学訪問



連携大学の拡充

- ・大学との連携強化
- ・オンライン講座やゼミ等の共同実施

総合的な探究の時間の充実

- ・地域探究の充実
- ・フィールドワーク縮小版の実施

【取組状況】

新学科の単位数検討・年間指導計画の作成

- ・総合的な探究の時間を各学年3単位へ
- ・学校設定科目を各学年3単位へ
- ・年間指導計画の概要作成
- ・新学科の修学旅行先変更の検討

コンソーシアム化・役員拡充

- ・「美和高マインド」のコンソーシアム化
- ・大治町教育委員会・あま市観光協会より新たに役員を選出
- ・地域講演会の実施

小学生向け七宝焼講座



大学訪問・ゼミの共同実施

- ・大学訪問の実施
- ・地域探究ゼミの共同実施
- ・次年度（令和6年度）の内容検討

地域探究発表会・フィールドワークの実施

- ・地域探究発表会の実施
- ・地域と協働したフィールドワークの実施
- ・地元小中学校との連携協議の実施

【美和高等学校と連携機関・大学との協働体制】

令和5年度
年3回のコンソーシアム会議
年2回の運営指導委員会 を実施

【運営指導委員会】
外部有識者
愛知県教育委員会 等

指導・助言

コンソーシアム会議



美和高等学校

地域で学ぶ機会を提供

高度な学びの機会を提供

【コンソーシアム】あま市・大治町等
市役所 商工会 社会福祉協議会
NPO法人 教育委員会 NEW!
中学校 小学校 観光協会 等

【コンソーシアム】東海地区の大学
愛知県立大学(予定) 三重大学(予定)
岐阜大学(予定) 愛知大学(予定)
名古屋文理大学 星城大学

【成果と課題】

成果

前年度から継続した小学生向け七宝焼講座に加え、小学生向け校外学習の引率、放課後こども教室や子供会のイベント運営、小学校での茶道教室の実施、あま市民病院とのトリアージ訓練など、新たな連携先との協働活動に取り組んだ。また、5大学を訪問し、ゼミに参加、ゼミ内容実践のフィールドワーク（地域での調査活動）を実施するなど、生徒の学びを深化する活動を行った。

参加した生徒からは、「地域に貢献できる喜びを感じた」「地域政策に興味を持ち、大学でそれを学びたいと思った」など、前向きな感想が多く聞かれ、生徒の意欲向上に一定の成果があった。

また、連携機関の拡充、コンソーシアム役員の増員など、地域との連携についても強化することができた。

課題

新学科設置前の限られた時間数での試行実施のため、公募生徒や部活動生徒による休日や長期休業を使った活動が多かった。今年度試行実施した内容は、新学科設置後の授業時間数とのギャップにより、変更や修正が予想される。授業内で実施する際の、詳細な指導計画の作成が今後の課題である。



校外学習引率



トリアージ訓練



星城大学 地域探究ゼミ



フィールドワーク

【滋賀県立伊香高等学校】地域社会学科（令和7年度設置（予定））

新学科
コンセプト

滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し
「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む

<ゼロ・カーボン・ハイスクール>をめざす

培う
資質能力

人や地域と協働し
新たな創造に向かう
課題解決力

自己の思いを伝えながら
他者の多様性を理解する
コミュニケーション力

夢を描き
進路目標を実現する
自己実現力

未知の困難に柔軟に対応し
あきらめない
レジリエンス力

令和5年度の目標

- 「森の探究科推進室」を中心とした研究開発
 - ・カリキュラムの開発
 - ・新学科設置に向けた先行授業実施
 - ・コンソーシアムの立ち上げ
 - ・ウェブサイトやSNSを活用した情報発信

令和5年度の取組状況

- コーディネーターの役割の明確化
 - ・校務分掌に位置付け
 - ・職員室内に専用デスクを配置
- カリキュラムアドバイザーを加えたカリキュラム開発会議(内部)の開催
- 外部の専門家を中心に組織したカリキュラム分科会(外部)の開催
- 新学科設置に向けた先行授業実施
 - ・森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学び
- 地域をフィールドとした探究的な学びの実施
 - ・地域の人々や文化的資源を活用した多様な地域探究の学び
- 先進校視察(林業の学び)
- コンソーシアム立ち上げのための各主体との調整
- 運営指導委員会の開催

令和5年度の成果と課題

成果

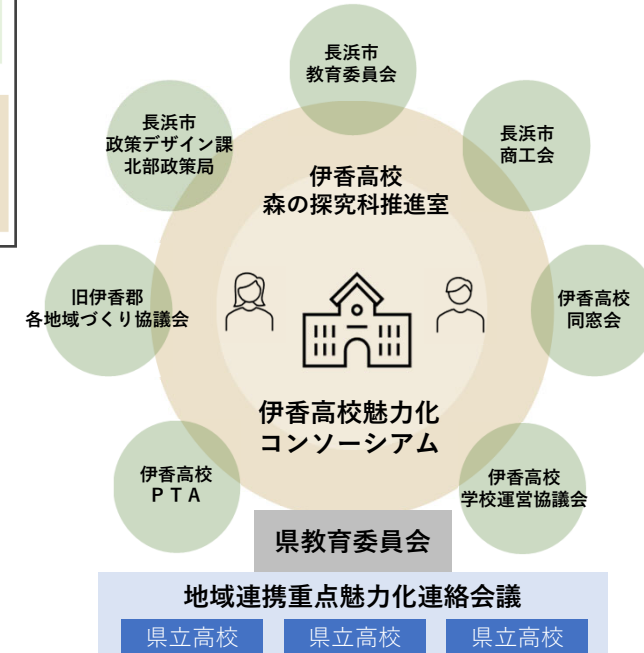
- 新学科のコンセプトや学校設定教科・科目の大枠の検討・作成
- 運営指導委員会等による専門家の意見を反映したカリキュラム案の作成
- 新学科設置に向けた先行授業の実施
- 「総合的な探究の時間」の授業内容の検討・実施
- コンソーシアムの立ち上げ
- 伊香高等学校魅力化シンポジウムの開催
- 「伊香高通信」の発行
- SNS等を活用した情報発信

課題

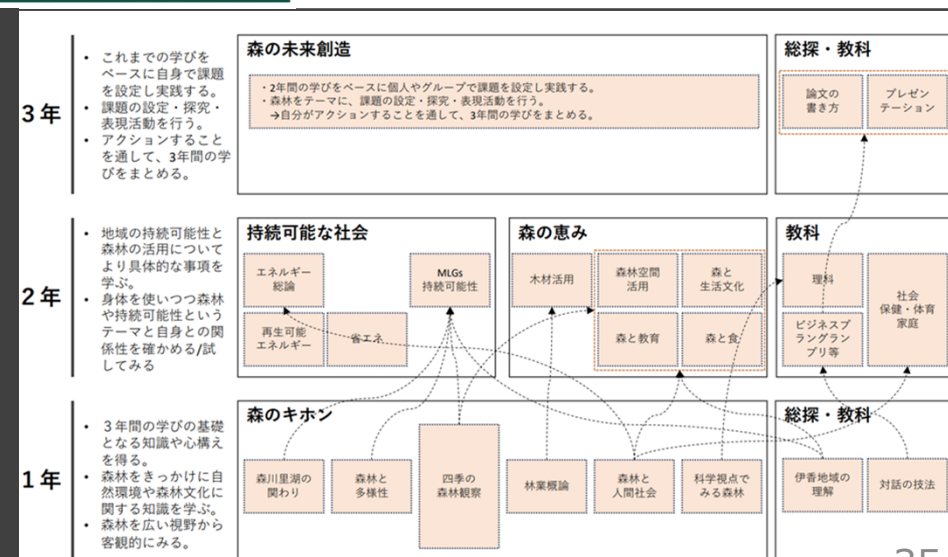
- カリキュラム内容の精緻化
 - ・学校設定教科・科目の具体化とその評価指標の設定
 - ・教科や類型を横断したカリキュラム・マネジメント
- カリキュラムの体系的な授業の組み立て
- コンソーシアムの本格的な運営
- 新学科に関する地元地域への丁寧な説明と継続的な広報活動の実施
- 普通科も含めた学校全体の魅力化



関係機関との連携・協働体制の構築方法



カリキュラム相関図



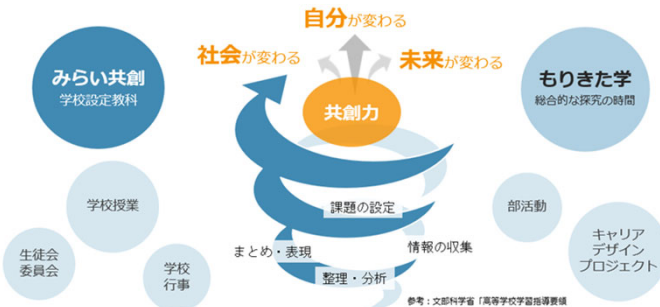
【滋賀県立守山北高等学校】地域社会学科（令和7年度設置（予定））

新学科コンセプト

「地域をフィールドとした学び」と「ウェルビーイング」を柱に、多様性を尊重し、他者と協働しながらよりよい地域の未来を創造する

特色・魅力ある教育活動の概要

学校全体の魅力化（未来を共創し、未来を構想するプログラム）



3つの重点ポイント

- 1 もりきた版デュアルシステム**
守山市の企業や大学等と連携した実践型インターンシップにより生徒のニーズに応えた進学・就職をサポートする。自由な進路選択を実現する。
- 2 探究との相乗効果**
みらい共創科で新設する「学校設定教科(みらい共創)」と「総合的な探究の時間(もりきた学)」との相乗効果により学校全体で生徒の学びの底上げを行う。
- 3 DXによる学びの実践**
PCやタブレットを活用した授業やグループワークを軸とした対話的な学びで表現力の向上を目指す。研究者・実践者・企業人らと繋がることのできるDXの学びの拠点となる。

令和5年度の目標

- 「みらい共創推進室」を中心とした研究開発
 - ・カリキュラムの開発
 - ・新学科設置に向けた先行授業実施
 - ・コンソーシアムの立ち上げ
 - ・ウェブサイトやSNSを活用した情報発信

令和5年度の取組状況

- 「みらい共創推進室」の設置
 - ・定期的なカリキュラム、総探、環境整備、広報デザイン等の検討
- コーディネーターの役割の明確化
 - ・校務分掌に位置付け
 - ・2人のCNの業務領域を分担
- 拡大推進室会議の開催
 - ・学年・分掌と情報共有、教職員の意識向上、新学科推進の機運醸成
- 新学科設置に向けた先行授業実施
- 先進校視察
- コンソーシアム立ち上げのための各主体との調整
- 運営指導委員会の開催

令和5年度の成果と課題

成果

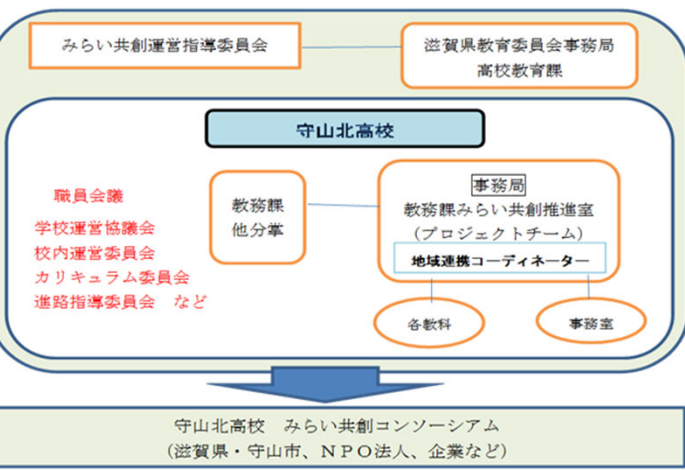
- カリキュラムの土台作り
 - ・もりきた版デュアルシステム
 - ・生徒アンケートによる意識調査
 - ・インターンシップ等に伴う関係機関へのヒアリング
- 運営指導委員会等による専門家の意見を反映したカリキュラム案の検討
- 新学科設置に向けた先行授業の実施
- 学校全体の魅力化の検討(学校設定教科と総探の相乗効果)
- 研究成果報告会の開催
- 広報デザインの検討(タブロイド紙(原案)の作成)
- コーディネーターによる職員研修の実施(新学科のイメージ共有)



課題

- 新学科設置に向けた先行授業の充実
 - ・学校設定教科(インターンシップを含む)、総合的な探究の時間
- 先行授業に伴う学校行事の開催時期等の見直し
- ポートフォリオによる見える化とルーブリックを活用した学校設定科目の評価方法の検討
- 学校設定教科の教材開発・研究(独自教材の研究)
 - ・探究学習用マニュアルの作成
- コンソーシアムの構築
- 新学科に対する教職員の意識向上(One Teamの学校)
- ウェブサイトやSNSを活用した情報発信
- 広報デザインの検討(中学生や保護者等への広報活動)
 - ・タブロイド紙の作成
- 探究学習用「MORIKITA BASE」の整備と地域に開かれた空間としての活用の研究

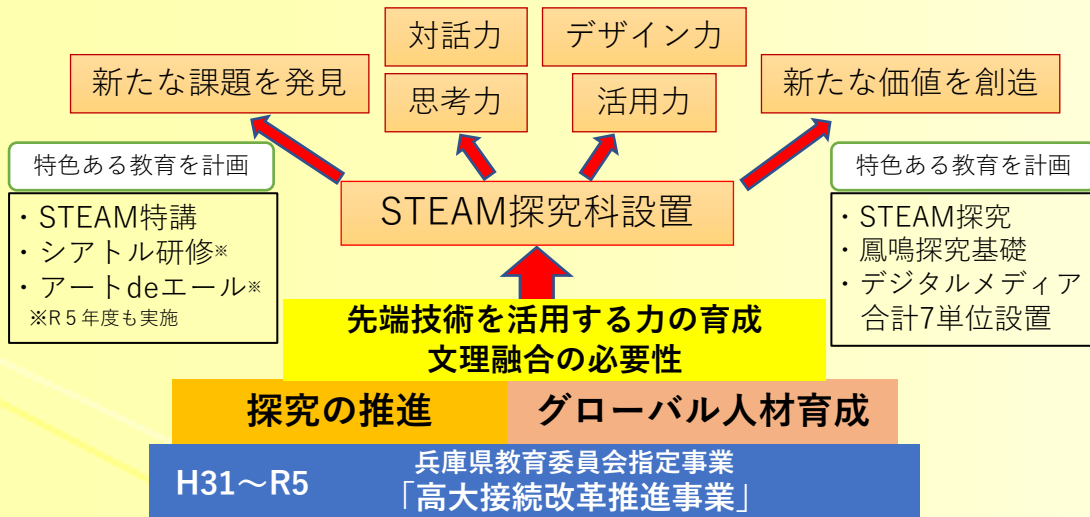
関係機関との連携・協働体制の構築方法



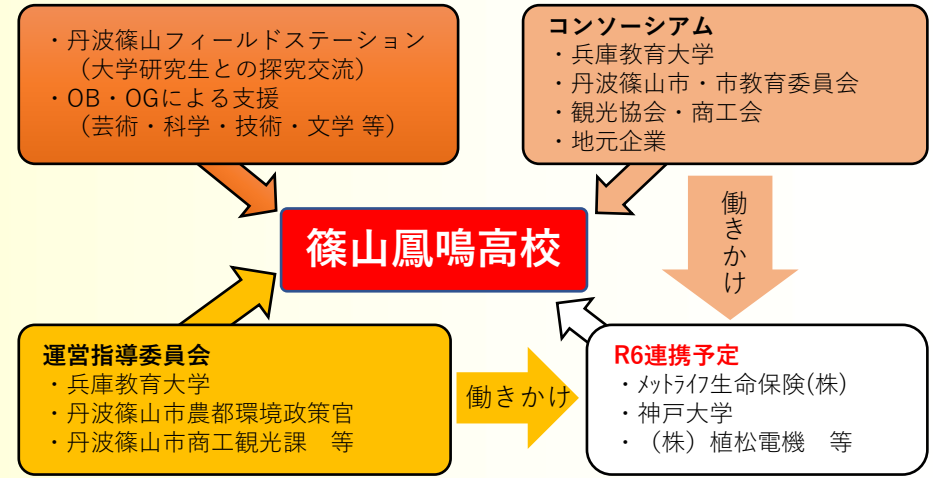
令和6年度は、地域連携の流れを持続可能なものにするため、地域に根差したウェルビーイングの観点から、大学や福祉、農業、まちづくり団体を、キャリア教育の観点から、商工関係団体・施設、地元起業家等を構成員に迎え入れ、学校と関係機関が有機的につながったコンソーシアムを構築する。

【兵庫県立篠山鳳鳴高等学校】STEAM探究科（令和6年度設置）

学科設置の目的と育成を目指す能力



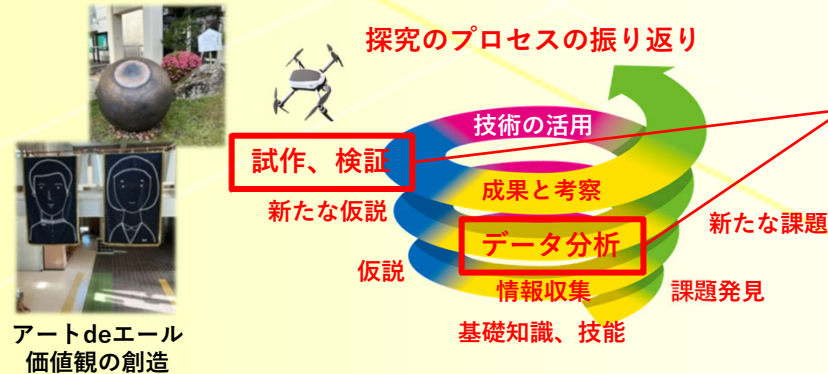
連携体制の構築



令和5年度の目標と取組

- **STEAM 探究科のカリキュラム開発**
「STEAM 探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」5単位
「鳳鳴探究基礎」1単位
「デジタルメディア」1単位
「STEAM探究科教育課程」
- **探究活動の推進**
全校で2年間の探究活動を実施
全校発表会「探究DayⅠ・Ⅱ」の開催
- **OB/OGによる支援**
芸術・科学・技術・文学 等
- **保護者、中学生へ新学科周知**
オープンハイスクール開催
チラシ・ポスター制作
- **STEAM 探究教員研修の実施**
STEAM教育研修
ファシリテーション研修
3Dリバーズエンジニアリング研修
- **先進校視察**
県内8校、県外3校2施設を視察

成果と課題



生徒の変容

生徒アンケートで向上がみられた能力

- ・論理的思考力（探究の思考過程で養成）
- ・対話力（探究のフィールドワークで養成）

課題

- **デザイン力の育成**
試作・検証 探究内容をOUTPUTする力
- **STEAMの視点**
興味ある内容についてSTEAMの視点から課題解決を図る力（データ分析力等）
- **テーマ設定の工夫**
丹波篠山の地で篠山鳳鳴ならではのSTEAM探究を目指す

兵庫県立姫路飾西高等学校 STEAM探究科(令和6年度設置1年次40名)

令和5年度 取組・成果 / 令和6年度 取組

時代のフロントランナーとして駆けぬけてきた40年、そしてその先へ

学びを自分でデザインしながら、「自分ごと」を発見



STEAM探究科

文理の枠を超えた学びを通して、俯瞰的視野、課題解決力、論理的思考力、主体性、創造性等を育成

目指す生徒像

実社会やこれからの時代に想定される課題を見出し、文理の枠を超えた複眼的な視野や柔軟な発想で、他者と協働して課題解決や新たなシステム、価値を創造しようとする生徒

将来の生き方や社会への関わり方を考え、やりたいことをアピールして進路選択

令和5年度 取組・成果

- ◆ 探究的な学びの実践
- ◆ 全校生にSTEAM教育を浸透
- ◆ 最新機器の活用法を考える学び
- ◆ 企業人や大学教授による講演会などの実施
- ◆ 外部人材を積極的に活用した探究活動の充実 など

先行実施 STEAM教育の考え方を踏まえた「総合的な探究の時間」各学年：1単位

11月 生徒対象講演会 他

100年経営企業から見てくる『生き抜く力』と、そこから見てくる『学びの意義』について

2月 県高等学校探究活動研究会 他

講演会ならびにポスター発表+ワークショップに参加

7月 中間発表①

- ・テーマ設定の理由
- ・テーマに対する課題や問題点の提示
- ・解決方法の検討報告



12月 中間発表②

- ・フィールドワーク、アンケート等の実施報告
- ・最終発表に向けて今後の方針



3月 成果発表会(2学年合同実施)

- 2年：1年間行ってきた探究活動の成果発表
- 1年：10月以降に実施したミニ探究の発表



学びを支えるコンソーシアム

コンソーシアム委員会・運営指導委員会による探究活動へのアドバイス・助言

令和6年度 取組 STEAM探究科<実施例>

<p>関係機関とのさらなる連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・STEAMキャンプ(大学・企業訪問等)の実施 ・外部人材を活用した各種講演会や授業の実施 	<p>国際的視野を広げる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール研修の実施と充実 ・海外のSTEAM教育の現状を探る 	<p>探究活動の成果発表や校外への発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種外部コンテスト等への積極的な参加 ・他校との発表会による交流
<p>カリキュラムデザインと評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次横断的なカリキュラムや年次縦断的なカリキュラムの作成と生徒との共通理解 ・評価規準の作成(ポートフォリオの活用やルーブリック作成等) 	<p>タイムリーな広報活動と地域社会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校への広報の仕方を検討 ・近隣小学校への出前授業等の充実 	

STEAM探究科の目標

Beyond the Border Quest

自分の固定概念を取り払う文理の枠を超えた探究活動

→ ホンモノに出会う・本気に触れる → 自身の未来へ繋がる

STEAM探究科に とどまらず、学校全体へSTEAM教育を普及



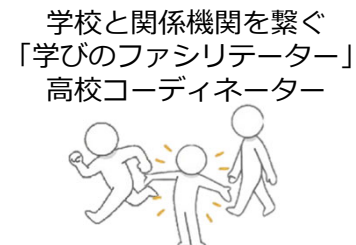
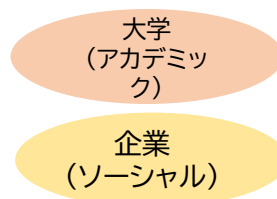
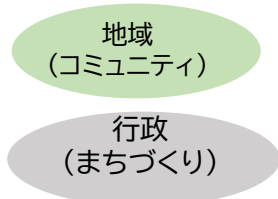
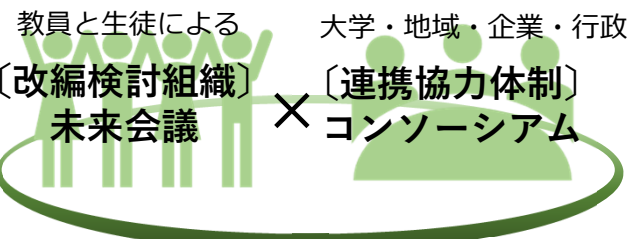
兵庫型STEAM教育を実践

自由な発想や新しい考え方を教育活動全体へ取り入れることで基礎学力や対応力、生徒の自律心・協同力・創造力を向上させる



【広島市立美鈴が丘高等学校】グローバル探究科(令和7年度設置 (予定))

学校教育目標:校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において、自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。
 育成を目指す資質・能力:地域や社会の課題を見出す力/正解のない課題に向き合い続ける力/協同して課題を解決する力



未来会議で生徒と教員が協働し、高校コーディネーターが学校とコンソーシアムを構成する様々な関係機関を繋ぐ

令和5年度の目標

- 新学科で育成を目指す資質・能力の策定
- 総合的な探究の時間の系統的カリキュラム化
- 探究活動を重視した授業改善を9つの資質能力と関連させて実施
- 「探究」の基礎力を育成する学校設定科目「未来計画」の開発
- 生徒の学校運営への参画・先進校視察
- 特色ある学校運営の推進

令和5年度の取組状況

- 職員研修等による資質・能力の策定とルーブリックの開発。全教室で資質能力ルーブリックの掲示。
- 令和5年度全体計画をベースとした「探究」コンセプトの確立と系統化。年間2回の学校全体での探究成果発表会の実施と事後アンケートによる質的改善。
- 3か月間の授業月間の実施。育成したい資質能力に基づいた授業案の公開と実施、観察カードの提出。
- 「未来計画」の年間指導計画の作成。探究基礎スキル「合意形成」「レジリエンス」「複数回のミニ探究」「探究のフレームワーク」を身につける計画及び教材の作成。
- 生徒会を中心に、令和4年度指定の市立高校3校を視察し、授業観察や生徒交流を実施。生徒による職員研修で視察報告及び提案。
- ノーチャイムの試行実施や探究活動に特化した教育課程の開発。

令和5年度の○成果と●課題

- 新学科で身につけるべき資質・能力の策定とルーブリックの構築と共有
- 学校全体として「探究」の質的改善を促進する仕組みの構築及び「未来計画」の年間指導計画の作成。
- 新学科に関する様々な仕組みの試行実施及び検証や決定。高校コーディネーターの採用実施。
- 生徒が学校運営に関わるための先進校視察や教員との共同研修の実施。
- 本校の学校教育目標により特化した形での資質・能力及びルーブリックの改善
- 総合的な探究の時間を通して地域社会とつながり、課題解決に貢献するという実際の成果の創出
- コーディネーターを中心とした地域社会との接続・連携
- 新学科のコンセプトを伝える広報物の作成・配布や中学生に向けた新学科の説明と地域社会への周知

【鹿児島県立種子島中央高等学校】 ミライデザイン科（令和6年度設置）

目的

「デジタル技術」を活用し、社会生活を変革できる資質・能力を身につけ、次世代（デジタル社会）を創造する人材を育成すること。

教育の概要

自ら課題を発見し、解決までの過程を筋道立てて構築する力（デザイン思考）と、課題解決のための有効的な手段として、目的に応じてデジタルツールを適切に選択・活用できる力（デジタル技術）の2つの力を育成。

育成する能力・資質

デザイン思考

- ・課題発見力
- ・課題解決力
- ・コミュニケーション力
- ・創造的思考力等



デジタル技術

- ・データ分析
- ・ICT機器の活用
- ・生成AIの活用
- ・情報発信力等



デジタル人材

令和5年度の取組・次年度の課題

学校設定科目「DX」の開発

【主な取組】

- ・学校設定科目「DX」と設定
- ・1年次のカリキュラムの作成

【課題】

- ・研究3年次に実施する学校設定科目「デジタル音楽」「デジタル美術」のカリキュラムを策定する
- ・デジタル分野のコンテストの精選
- ・シラバスの作成
- ・外部講師の選定、日程調整
- ・自治体・地元企業との連携強化

ルーブリックの開発

【主な取組】

- ・「デザイン思考」「デジタル技術」の習得が期待される資質、能力を明確化したルーブリックを作成
- ・専門家の助言を反映させた評価内容の検討

【課題】

- ・生徒の実態に応じてルーブリックの内容や評価の時期等を再考及び検証する
- ・デジタルツールを活用し、ポートフォリオの作成や記述式の評価の実施を行う

教科横断型授業の取組

【主な取組】

- ・生徒の探究的な視点を養うことを目的とした「教科横断型授業」

【課題】

- ・職員研修等を通して、教科横断型授業の目的や利点等を職員全員で共有する
- ・教科横断型の学びの機会を増やし、様々な角度から物事を捉える探究的な姿勢を持った生徒の姿を共有する

職員研修の実施

【主な取組】

- ・全職員に「デザイン思考」の研修会を3回実施
- ・造詣の深い外部講師による職員研修では、授業作りの工夫や指導ポイント等について、多くの職員が見識を深めることができた

【課題】

- ・「デザイン思考」についての職員参加型のワークショップを実施する
- ・「デジタル技術」の実践型の研修を行い、職員のデジタルツールの理解度を深める

新しい学び「デザイン思考」について

ユーザー視点で課題を発見し、チームで共創しながら解決策を見いだす思考方法です。低コストかつ短時間でイノベーションを起こせる思考法として、変化が激しい現代において、多くの企業に注目されています。

デザイン思考5つのプロセス

- 共感 ユーザーが何を不満に感じ、何を必要としているのか見抜く
- 定義 ユーザーの潜在的な課題を定義する
- 概念化 解決するアイデアやアプローチ手法を考える
- 試作 時間やコストをできるだけ掛けずに、とりあえず一度、形にしてみる
- 検証 試作品のユーザーテストを繰り返し、フィードバックされた意見をもとにブラッシュアップ

成果普及・情報発信

【主な取組】

- ・高校魅力化コーディネーターを設置し、画像生成AIを利用したインパクトのあるポスターや学校紹介動画を作成して情報発信
- ・中学3年生と保護者を対象とした学校説明会や個別相談会
- ・地域イベントや新聞、インターネット等での発信

【課題】

- ・新学科のより具体的な取組等の情報発信